特1 — 278

本草圖譜

本草圖譜卷之十三目録

濕草類一

甘菊	二	一種 花瓣よれるもの
一種 花瓣平なるもの	三	一種 龍腦菊
秋菊 中キク	四	洋菊 たかぎく
夏菊 三種	五	同 五種
ふたん菊 三種	六	茶菊 二種
滿天星 六種	八	野菊 あふぎぎく
		七
		九

一種 そらんたのきく

一種 和州産 十

菴蘭 いぬよもぎ

一種 深紅花の物

一種 もごろもさう

一種 伊吹よもぎ

一種 ちりめんよもぎ

一種 細葉の物 十五

一種

一種 朝鮮種

蓍 のぶぎりさう 十一

一種 白花の物 十二

艾 蘄艾 十三

一種 もちぐさ 十四

一種 いわよもぎ

一種 やなぎよもぎ

蔞蒿 ぬまよもぎ

千年艾 ちぐさぎく

一種 圓葉の物

本草圖譜卷之十三

濕草類一　四十五種

甘菊　アミやうりぎく

秋菊の類にして
高さ二尺九月
花ひらく瓣筒様
うしゝ黄色千
葉心なし一瓣
の木菊にして

末五つに切るもの
なり味甘し藥用
食用ともによし塩藏
して久く色味変せざる事へ
此種を壽命菊といふ

東都　岩崎常正著

ふだんぎく

三種

八十八夜に花開くまへ八十八夜とも名づく
苗一尺餘にして花あり花色紅黄白の三
種あるを皆花瓣筒様なり

一種 らんぢやたい

千葉黄色にして花葉の香氣
馥郁常品に異なり

一種 ゐくさぎく

千葉にして花瓣巻ける如し
花色黄白二品あり

白ゐくこぎく

野菊 あづまぎく

山野道傍自生多し故に野菊とも山菊ハ秋菊に似て
細とも多し花ハ梢小く單瓣黄色にして味苦し

一種 さらんどのぎくと

いゐあり莖高さ一尺に過ぎ葉ハ
野菊に似て細く花も小なり

一種

葉は鋸歯なく切こみのこゝろ
馬鞭草の葉に似たるものなり

一種

和州吉野の産は葉は秋菊
に似て花は野菊の如し

一種

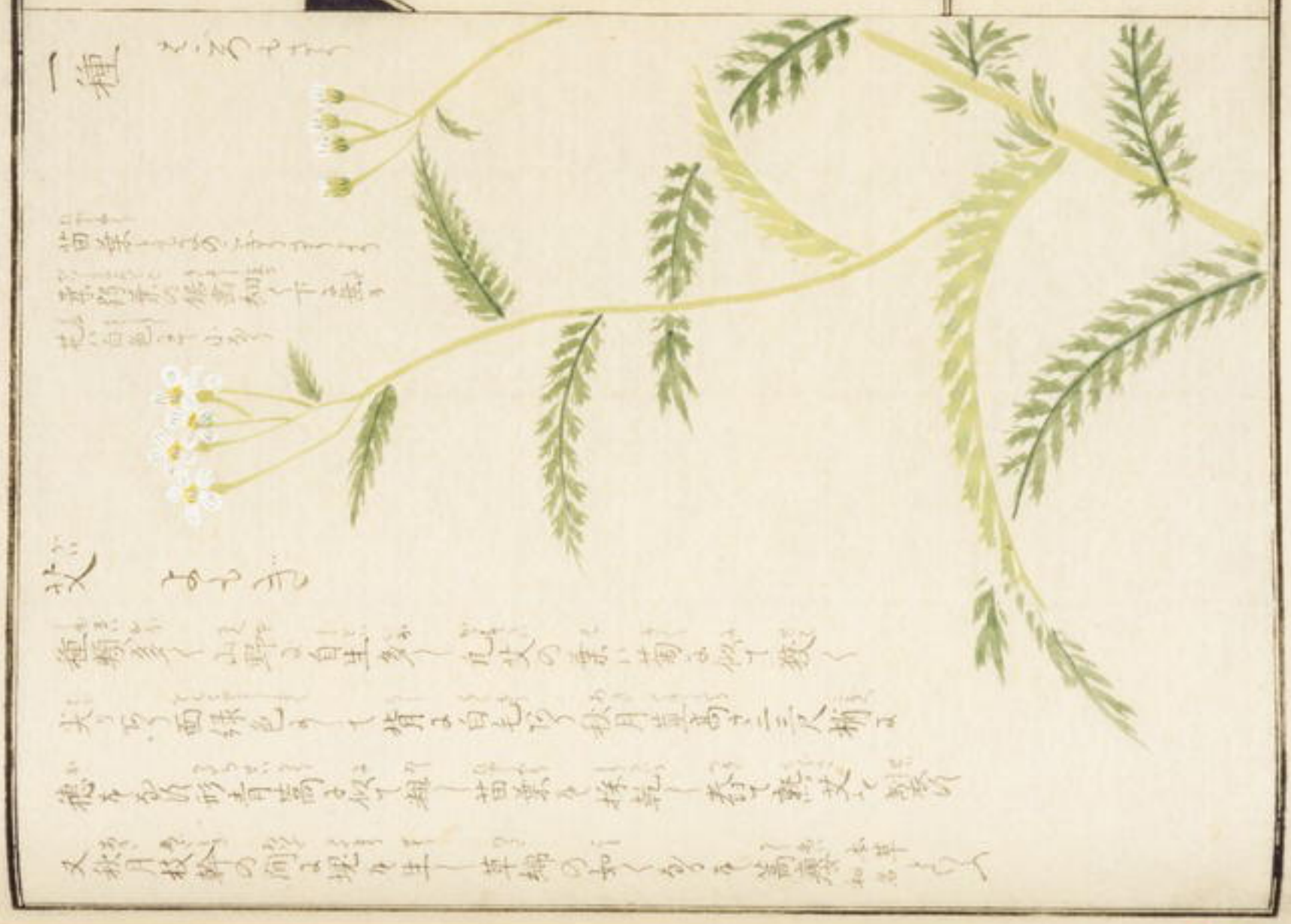
朝鮮種の野菊
なり高さ二三尺
葉は甘菊に似て
切こゝろ花は野
菊より美し

一種

深紅花のものなり北國にハ自生なりよし

一種

武州行徳海邊に自生するものハ白花なり



一種　ちりめんよもぎ

海艾の類にて葉の周り背より面の方へ巻り

一種　ひめよもぎ

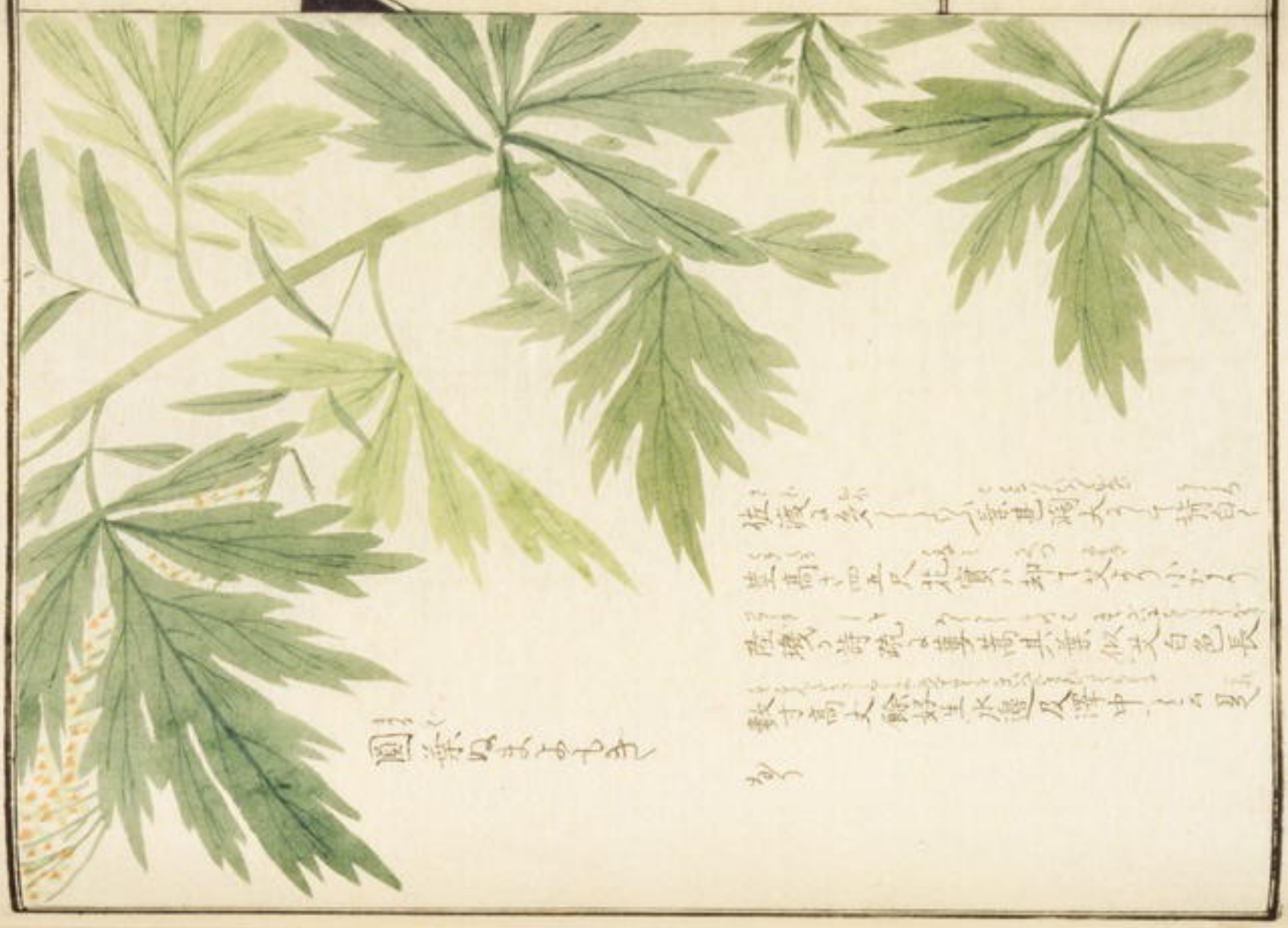
山野に生じ葉甚細く荊芥葉の如く花實はよもぎに異なるに是救荒本草の野艾蒿なり

一種　細葉の物

細葉のものは紀州熊野に產し葉は茵蔯の嫩葉に似て花實はよもぎに同じ

一種　やなぎよもぎ

尾州より來る葉柳に似るゆへ名づく宿根より生じ高さ二尺許花實氣味皆艾の如し稀品なり



千年艾　ちぐさいぎく

野州日光山にあり
宿根より叢生し
高さ五六寸許葉は
艾に似て甚小く又
菊葉に似て細く梢
に小黄花攢生し
味苦く艾香あり

本草圖譜卷之十四目録

濕草類

茵蔯蒿	かちしよもぎ	一	
黄花蒿	くそにんしん	三	
白蒿	あさきりぎり	四	
蕭	かちしちしお 三種	五	
一種	ふしかりま	六	
馬先蒿	きせわし	七	
青蒿	のにんじん	二	
一種			
一種	しろよもぎ		
角蒿	ヘイベリキュム		
藁蒿	もんくさがわさこ		
一説	しほりまきし		

一種　木曽御嶽の産　二品　八

一種　春のまゐりたい　九

一種　まゐやまより

九牛草　しもかつき

芫蔚　めなしき

薇銜　さいきく

一種　黄花のしおん

一種　花絞りの物

陰地蕨　ひなわらひ

一種　へびのしたた

牡蒿　をとこよもき　十

一種　うしもろきく　十一

鏨菜　白花益母　十二

一種　もんこんさく　十三

夏枯草　うつがくさ　十四

一種　白花の物

一種　朝鮮種

一種　白花の物

曲節草　やまあい　十六

一種　千瓣の物

一種　山生の物

一種　みづしとし

劉寄奴草　ちいさちさく　十五

一種　細長葉の物

旋覆花　をくるま

一種　筒咲の物　十七

一種　かせんさく

本草圖譜卷之十四

東都　岩崎常正　著

濕草類

茵蔯蒿　かつらしよもき

相州馬入川武州多摩川處々水邊砂地に生ひ宿根より生ひ冬死せしと艾の葉に似て細長く岐多く白毛ありて夏月茎高さ二三尺梢の葉は小茴香の葉に似たり茎の頭穗をなし花黄白色青蒿の花に似たり葉芳香味敏辛く此時珍説ところの山茵蔯なり一種茎紫紅色にて低く二尺許葉尚細きあり俱に八九月嫩苗を採て藥用に入へし漢土にて家圃に栽て食料にするを家茵蔯といふ皆一物なり

青蒿
のふんじん

海河の水邊に生じ秋月實より生じ葉は茵蔯に似て白毛あり春に至て茎高さ三四尺枝を分ち穗をなす茵蔯蒿花に似て苗葉脛熏あり神麴に用るその是に

黄花蒿
くそふんじん

海邊砂地に生ず初生地に赤く葉は青蒿に似て細く黄緑色臭氣あり茎高さ三四尺穗青蒿に似て黄花細小なり

一種

アフシンチュム 羅甸 アルセム

冨山侯越中國にて初て此物を得られしより秋月實より生じ葉は野菊に似て粗大根は小指の大さ冬を怪て夏月高さ二三尺黄花蒿の形の如く花淡黄色下無し花實なきに根茎ともに枯る花葉味甚苦く蒿の香なり阿部櫟齋此を西洋のアルセムなりしと云宇田川榕菴アフシンチュムは宿根の物にて形稍異れども香味近ければ藥用まへしと云

白蒿

あきまうさう

蝦夷より来る人家に栽ることあり宿根より生じ冬凋し茎高さ一二尺葉艾に似て甚だ細し面背共に白毛あり又茵蔯葉に似たり花穗は艾に似て白色なり味微苦く艾香あり蘇頌の説に葉頗る似細艾上有白毛とはいふ是なり

一種　まつよもぎ

佐渡の海辺に生ぬ葉は雉兒腸なるに似て
鋸歯粗く厚して面背皆白毛なり茎高
さ一尺餘穂をなせ形なさぎりきりに似て粗
く大ひなり此物人糞を流れ枯るこのなり

一種　かちらもちこ

一名なしれきくよりは水辺
砂地なり宿根より生ぬ
葉は柳に似て厚く面背
白色なり茎高さ一二尺
梢に小白花攢生ぬ形
蓍實に似たり此物狀名
の蕭なり一種大葉の
物なり又一種山もちこ一名
こやまごきやしらへなり
野州日光山に生ぬ葉薄
くして両頭尖り背り
白毛なり白花なり

やまもちこ

大葉の物

角蒿

ヘイギリキュム　羅甸 和蘭

和産なし和蘭「トヽ
ニー」又角蒿に充てき
そのなり其葉麋蒿
わせいに似て角を結ぶ
形長して曲れ宋痴の
説に結角長二寸許微
彎をとゝに符合し

一種

さいしかうま

一名ままおもきともいふ實より生じ茎高さ一尺許り葉は菊に似て小く毛茸なり又漏盧に似て
方茎對生し紅紫色を帯ふ花淡紅色胡麻花に似たり後角を結ぶ短くして尖れり葉味苦酸焦
氣なり雷斅の説に紅蒿角短といふ是なり

藁蒿

[illegible]

又名[illegible]

野州日光山武州高尾山其外諸国山[illegible]

宿根より生じ葉の形小菊に似て厚く又馬[illegible]

草葉に似て大なり苗葉紅紫色を帯ぶ

茎高さ二三尺許梢に花を開く形馬先蒿

[illegible]の如くにして紅色多く後短く尖りて

角を結ぶ先葉[illegible]

[illegible]

馬先蒿　きせわた

野州怒峯及江州伊吹山に自生す寶永に生ず

又宿根より生じ葉は艾に似て厚く深緑色又芝蔚に

似て尖り方茎對生し高さ三四尺葉の間に花を開く

益母花に似て大なる淡紅色實は芝蔚子に似て粗し

種類説多き多く一種高さ一尺餘にして花實ある

[illegible]

一説　志和ゆまぎく

又ゆづりまぎく見州といへ山野の陽地にあり
宿根より生ひ葉は地榆の一葉に似て
鋸歯細なり茎糙渋にして高さ二尺許り
秋梢に花を開く形大豆花に似て紅色後尖
りしより用を結ぶ葉味辛く香氣菊に似
しより高錫説ところ是なり又白花の物野州
日光山にあり

一種

木曾御嶽山の産四葉對生紫花の物

一種

同産細葉淡紫の物

一種　へびのあと　リニナリア　羅甸

蝦夷と作ちる產は形狀石長生に似て葉厚し

ケレイ子マーニコロイト　荷蘭

一種　ヌよおやもう

處々平原の地にあり細根より生じ一莖一花穗の形やまゝに似てこれを振れば黃色の細粉出つ

牡蒿

おとこよもぎ

山野にあり宿根より生じ葉長くして末の鋸歯ありて鼠の尺に似たり故に祕つるのことしり圓莖互生し高さ二三尺花穗青蒿に似て黃白色なり又細葉のものと日光山にて赤沼よもぎとのへ

九牛草　しもかつぎ

宿根より生ひ葉は菊に似て開缺なく但翹き鋸歯ありて面緑色にして葉背白色雲母の如し故に羽州米沢にてしもかつぎと云秋月茎高二三尺梢に小黄花攢生し則く形劉寄奴に似たり味苦辛く烈香なり是稜頌の説に余圓而長背有白毛而青りと云に符合す

一種　らくしもつぎく

しもかつぎより葉狹く長しして茎高さ三尺許り花草瓣黄色形野菊に似たり葉の背白色味ひ苦く辛く艾香あり

薇衛

さいきく

又かろきくともいへ山中陰地に秋月生じ冬月に苗地に攝して周まじ形菊の葉に似て尖りて毛ありて圓茎にて中空にして互生じ夏月茎高さ二三尺紫黒色にして毛茸ありて梢に數花集り開く形蘂吾いきの花に似て甚だ小く又えんこんさうに似て又小く單瓣の黄色なり焦氣ありて味ひ微苦辛く是を撰恭説の小呉風草なり附録の無心草恐くは同物なる歟

かろきくは茎の中空にして竹管の如し

一種

ナンゝじんさう

又やまあさ北國ともいへ播州及野州日光山武州秩父山にあり春月宿根より生じて葉は蘭草に似て狹く圓茎に互生じ夏秋の間茎高さ四五尺梢に數十花攢生じ單瓣小き菊花の如し葉味ひ微苦く微香あり是大呉風草なり時珍は是を劉寄奴草に充つ

一種　黄花の志なん

勢州布引山に生ぬ紫菀の類に非ず葉は紫菀に似て短くこんこんさうに似て岐かし花はこんこんさうに同じ眼夷にて

ノコンチとりへ

夏枯草　うつかくさ

山野に自生多く秋苗葉を生ず車前子葉に似て小く微し鋸歯ゆ方基對生ぬ冬を経て春に至り高さ一尺餘梢に穂をなす形楔の茨の如く鱗甲ゆ長二三寸花紫色唇の形をなす夏月蕾基枯て側に苗を生ぬ一種白花の物播州にゆり一種紫白相

絞りのもの

雑り則ち物なり寛政癸丑年唐種夏枯草の實を持渡り是を栽て生を聞ちうつかくなるより又近頃朝鮮種の夏枯草なり和名うつぼくさと同じ但花淡紫色にて毛茸なし紹興備急本草の圖する處の滁州夏枯草是なり蕭説にまづ此ものなりとて草と見つ救荒本草の圖には似れども夏枯草の類に非ず

劉寄奴草

秋のきりんさう

江戸にてはいちきさうと云山野に多し春宿根より生ず紫菀葉に似て小く淡黄緑色圖葉互生秋月茎高さ二三尺梢に枝を分ち穂をなして菊花に似て小黄色なり一名白和くさ味辣又香なり金瘡に用ゆ効あり此物備急本草圖する處の滁州劉寄奴の形に合す又藤森の採備説とこれ皆是なり

曲節草 やまあい

メリクリウス 和蘭

野州及諸国山中ニ多ク有リ宿根ヨリ生ジ圓茎對生シ葉ハ蓼藍ニ似テ深緑色光澤有リ四時凋マズ夏秋の間ニ小碎白花ヲ生シ後小キ毬實ヲ結ブ青緑色根上の茎必ズ曲リ生ズ此物諸草ヨリ青緑色多キ故やまあいと云漢土ニテ蛇藍ト云又根上の節曲ルを以テ曲節草と名づく

旋覆花 をくるま

山野の濕地に生じ
白毛の鬚根土中に
延て春月苗を生じ
夏月茎高さ二尺許
梢に花あり單瓣黄
菊に似て細し

一種 千瓣の物

一種 筒咲の物

一種 山生の物

無煙小さくして硬く花に
尋常の品に同じ

本草圖譜卷之十五目録

濕草類

青葙	一
鴈來黄	三
雞冠	四
一種	五
一種	六
一種	
鴈來紅	二
十樣錦	
一種	
一種	
一種	
紅藍花	八

十	[illegible]	一種	[illegible]
十一	[illegible]	一種	[illegible]
十二	[illegible]	一種	[illegible]
十三	[illegible]	一種	[illegible]
十四	[illegible]	一種	[illegible]
十五	[illegible]	一種	[illegible]
十六	[illegible]	一種	[illegible]
十七	[illegible]	一種	[illegible]
十八	[illegible]	一種	[illegible]
十九	[illegible]	一種	[illegible]
二十	[illegible]	一種	[illegible]
二十一	[illegible]	一種	[illegible]
二十二	[illegible]	一種	[illegible]
二十三	[illegible]	一種	[illegible]
二十四	[illegible]	一種	[illegible]
二十五	[illegible]	一種	[illegible]
二十六	[illegible]	一種	[illegible]
二十七	[illegible]	一種	[illegible]

一種　芄
一種　いちご
蔄麻　いちび
胡盧巴　ゐがまめ　三十

本草圖譜卷之十五

東都　岩崎常正　著

濕草類

青葙

のげいとう

春月實を種て生じ葉並雞冠花に似て葉の間に鍔の如き葉を生じ秋月高さ二四尺稍々穂をなして花を開く本白色あるを未淡紅色なり又青白色黄色等の品あり勢州藝州四國九州みなあるより國にあり花色の異ゆり又根州和州日野にあれはりと寺嶋良安云り

桃木術錄二説ゆ蕭炳説ことゆるの黄花の青葙ゆ藏器説ことゆるのかぶはまんりと菜之部の紫菫なり

淡紅色の物

青白色の物

鴈来紅

鴈来黄

一種

一種

一種

一種

一種　ちやぶけいとう

苗矮短にして五六寸にて花
毛間に形ありけいとうの如
漢名壽星雞冠 [illegible]

一種　みしきけいとう

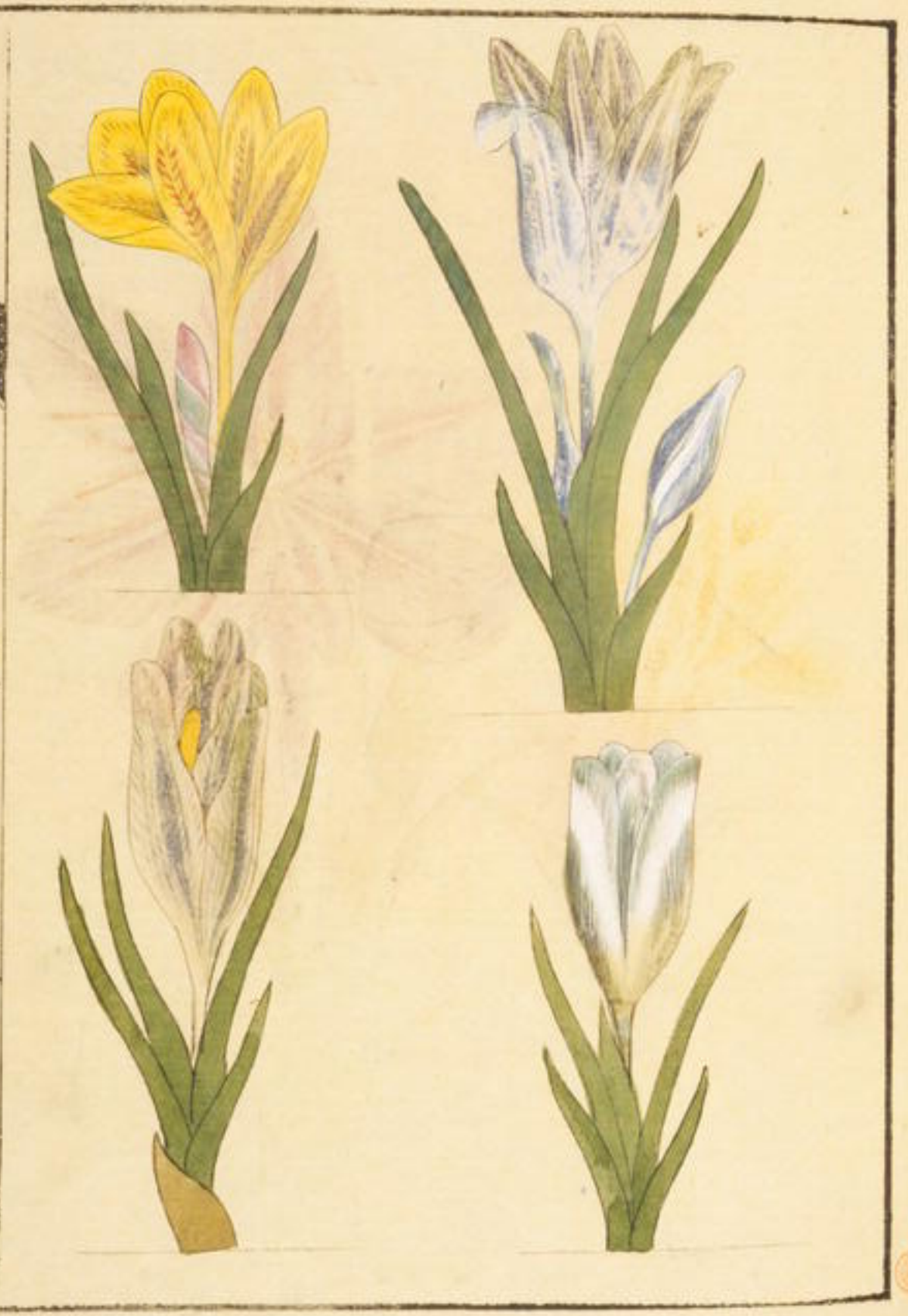
ちやぶけいとうの類にて葉
に白斑ありて頗る鶴の如
花ありけいとうの如

紅藍花　ムれのはい　和名鈔

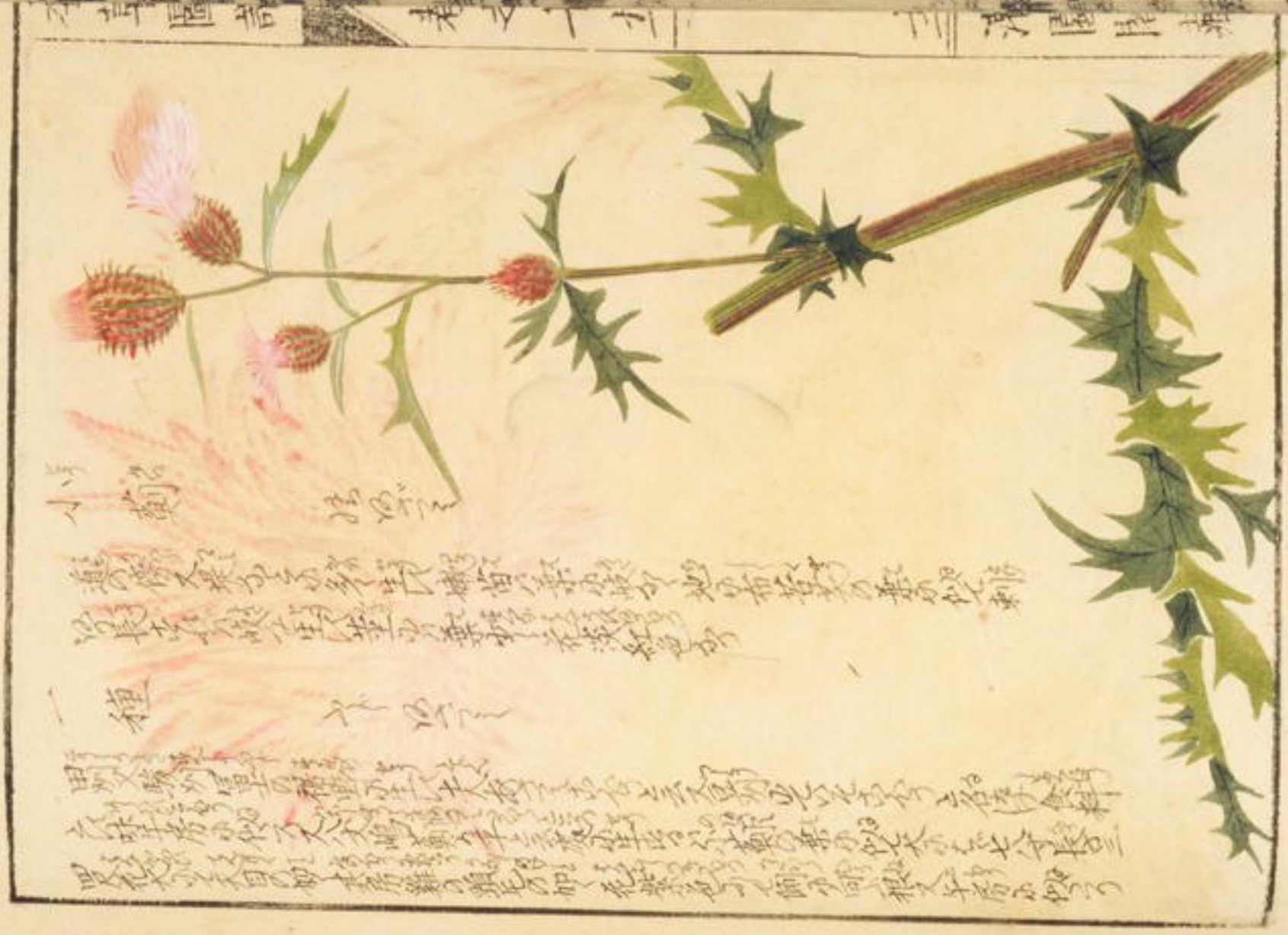
[illegible]

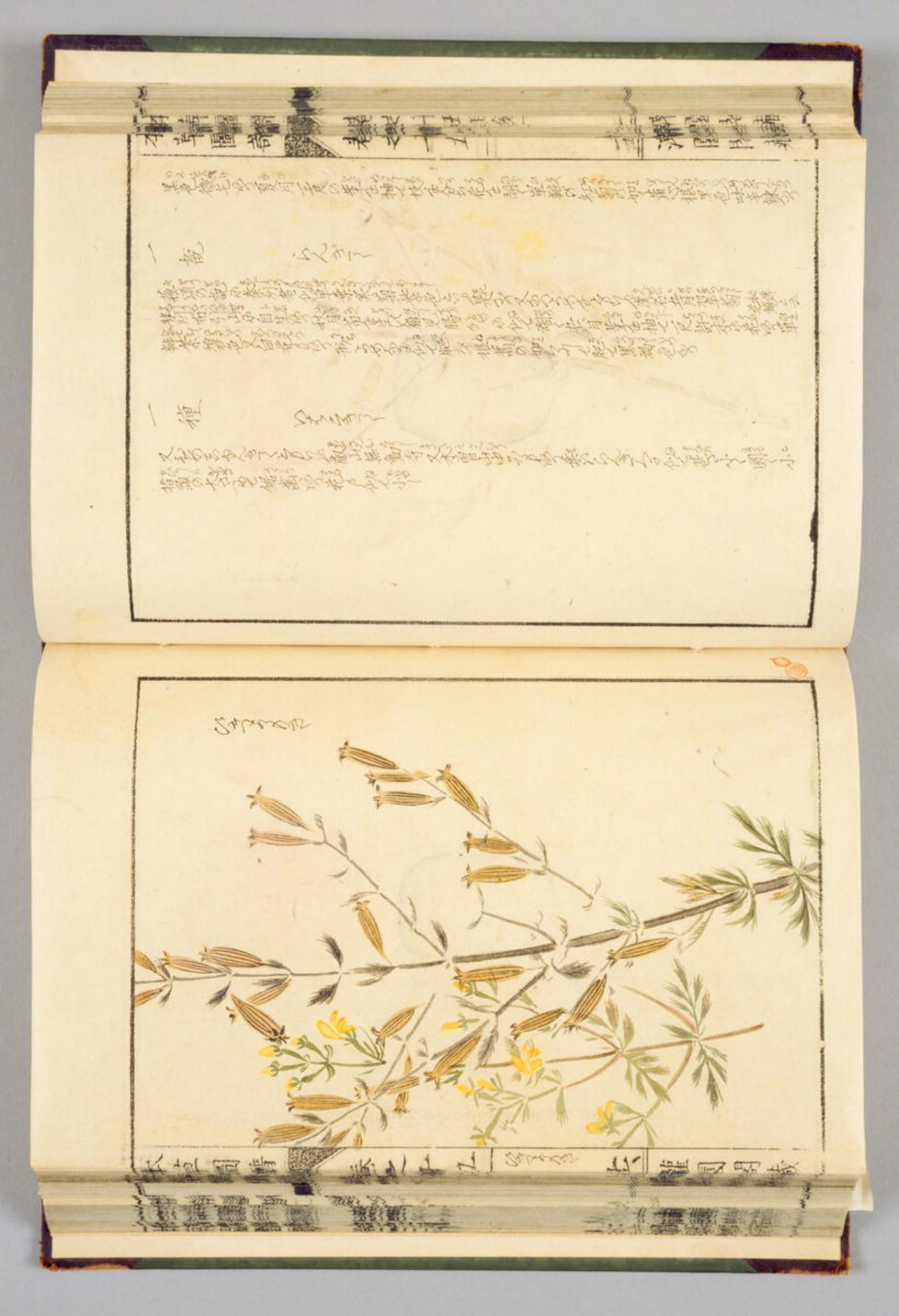
番紅花　チヤフラン　サフラーン　同上

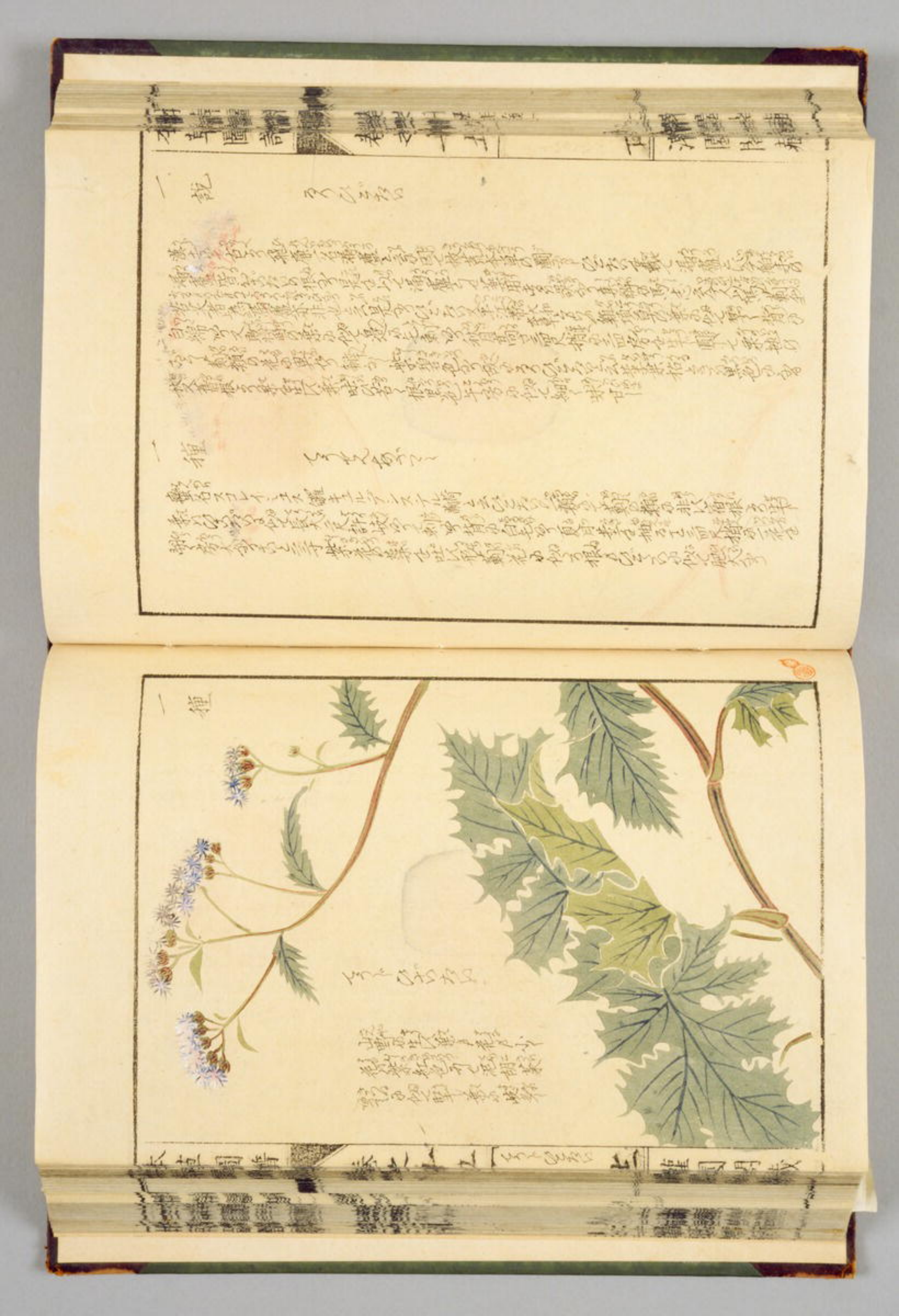
[illegible]

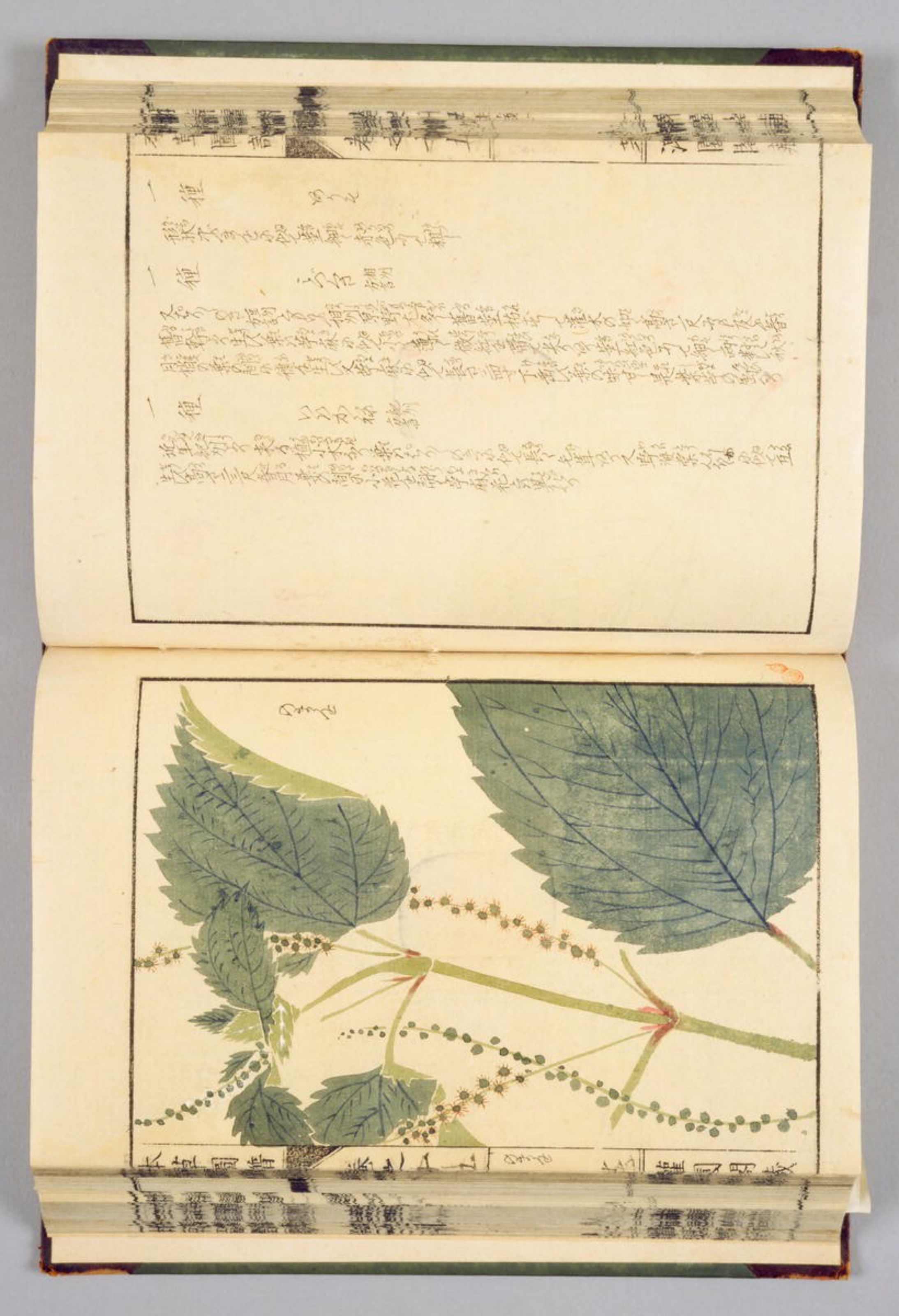


番紅花
以下十一種









本草圖譜卷之十六目錄

濕草類四

蠡實　ちまん　二
惡實　むまふぐき　三
葈耳　ごなすみ　五
一種　しうぶんさう
一種　がんらびさう　七
豨薟　めなもみ　八
一種　かまやはしやうぬ
一種　魯西亞種　四
天名精　いのしりくさ　六
一種　やまおわう
一種
箬　ちまきげ

胡盧巴　ふかまめ　神田氏

集解の雷龍蔔子ニ名ヲ因テ多識編ニ於テ此物和性ニ享保年中唐種渡ノ今處ノ官園ニ多ク春月實ヲ下シ生ス兼ク首蓿ニ似テ小ク圓シ豆生ス莖長ニ二尺許夏月葉ノ間ニ花ヲ開ク淡黃色赤小豆花ニ似テ後角ヲ結ぶ其ノ分餘長ニ四寸中ニ實ヲ紫雲英ニ似テ大ク黃白色ニ此茶ヲ集め乾ス其ノ鉄鄙ニ有ル者最ニ草零陵香ニ屬ス見ル

アーニュムガラエ
リムネキリーキ　荷蘭

一種　舶来箬葉
蘆　なし　十
荻　をぎ　十三
甘蕉　牛乳蕉　羊角蕉　十四　十五
紅蕉　びしんせう　十七
一種　やぶかうが　十八
一種　かちうどくは　十九
一種　きとくは　廿
一種　くまさく　九
一種　うどのこし　十一
一種　ひゑかし　十三
水蕉　ぶせば　十六
蘘荷　めうが
麻黄
木賊　とくさ
問荊　すぎな
石龍芻　いぬゐ　廿一
燈心草　ゐ　廿二
龍常草　ゐをゐ

本草圖譜卷之十六

濕草類　三十四種

岩崎常正著

蠡實　えびん　馬蘭の音轉

自生なし人家たまく植るものなり紫羅襴あやめ乃一種なり春月宿根より生じ葉はあやめに似て厚く硬して皆ねじ過たり故に祈しあやめともいふ葉長さ二尺許春乃末花あり三瓣は大にして三瓣は狹く淡紫色にして中に斑あり後莢を結ぶ形蠐螬ひに似たり中に扁き黄色の實あり又近頃舶来種あり形相似て但葉長花色薄し

一種　かまやまやうぶ

琉球釜山なり来るといふ葉祢じあやめより長く三尺ばかり花深紫色なりしく美し

惡實　むまふぐき　本草和名

葉ハ唐大黄に似て長大根ハ薊根乃如なりしく肥大なり花紅色薊花に似ず實ハ楓毬に似て中子胡麻に似て兩頭尖まつ藥用なし根ハ食料とし諸國に名産多し東國にくハ上野乃行田下總の大浦武州岩築結城忍又浦賀牛房ハ甚長く味美なり又武州北門谷俵牛房ハ肥大にて長く柔くしく熟し易しと云

一種　ぎろしやごぼう

此種近年魯西亞なり来るといふ葉ハ牛房に似て花又甚多く薊葉に似て刺なく根も牛房と異なることなし淡黒色味淡甘香氣なり花實ハ牛房に同じ

むまふぐれ

魯西亞種

荒野に多し實なり生じ葉は牛房に似て圓く又白桐に葉に似て小く厚し莖高さ四五尺枝をかち夏月小白花を開き實を結ぶ其形占斯ありたとく毛刺あり人衣獸毛に粘せ一說葉耳の釋名に卷耳を引く一物とせれども詩經の註に形如鼠耳叢生如盤と云ふよりしばみなどさなり山野に多し冬なり生し春に至て盛なり葉は鼠乃耳に似たりこれ雞腸草なるを

天名精 いのもりくさ
山野に多し葉の形
烟草に似て小なる
やふたぐこともいふ苗初
地に布後高さ二尺許
枝の葉間に小房を連
生し黄花なり實甚
碎小なり是に觸れば
人衣に粘る故に鶴
虱乃名なり

苗葉雞兒腸に似て莖高さ二尺許
多く枝を分て葉間に碎小白花あ
て房乃形天名精と相似しく
豨薟の附録乃羊尿葉に似
まども未決ならず

一種
ごんぶびさう
山野にあり葉は天名精に似て枝の末にとる
一花を開く黄色にて指頭の大さ下に曲を向ふ其形烟管乃頭に似たり
是救荒本草に拘兒菜なり一説に
豨薟乃附録乃類鼻に充つ
決しがたし
一種
花實小なる物

一種
やまぢわう
萌初地に布て地黄
葉に如く又天名精
に似て軟く毛茸あ
て花はうんぶびさう
にあなし

山野ニ多シ春月實ヲ生ジ葉ハ紫蘇ニ似テ齒ナク三縱道ヲ生ス莖窊面紫色枝葉對生シ毛茸ヲ有ス高さ三四尺枝ヲ生ス秋月小黃花ヲ開ク實五尖ヲ有ス人衣ニ粘着ス葉味辛シ

箬

山中自生ゆり根土中に延て飛白竹
清俗ちきと乃如く處に筍を生じ幹高さ三四尺
葉は形山白竹に似て濶大葉老れども
周り白色にあらず葉廣さ二寸長さ六七寸本末とも
に圓にゆり端牛に此葉にて糯を包む故に名づく

一種　ちまきたけ
形状箬と同じく但
高さ一丈に及ぶ

舶來箬葉

一種　くまきたけ
處に山中に多し形状箬ちまきに似て
冬月は葉は周圍皆枯て白色になる
故に山白竹乃名あり和名もやきびさしと云

蘆　和名鈔

又よし　攝州　ともいふ春月宿根より生ず水澤の地に多し初生竹筍乃如く小兒好んで食ふ清商人は煮て食ひ長ずれは高さ一丈餘竹に似て枝なく軟なり竹葉に似て長し穂は芒すに似て肥大紫褐色後白色に變ず又葉左右へ互生せずして一方のみ生ずると片葉のよしといふ別種に非ず

蘆根

一種

うどのくさし

攝州島上郡鵜殿村の堤に生ぜ名産なり葉は蘆に似て狹く長く深緑色なり暖地にては冬も凋まず其幹一丈餘二年を経て枝を生ず三四年にして枯ふ根に近き處を切採て筆菓の義備に作る此とも又房州にもはりだんちくと云又西湖の蘆と称するも同物なり蘇頌の説に深碧色者謂之碧蘆とはこれなり

荻

うこのや 貝原

を記すり水邊に生ずる根は竹に似く
細く土中に延苗葉は芒きに似てあるき
四五尺幹圓扁して實し但小孔あり
秋月穗を生じて又芒の如く肥大初
紅紫色後白色に變ず

一種 蒹 ひめよし

勢州鈴鹿山に多く生ぜ又豫州に多し此かく編なる簾と伊豫まゞゴルと云名産なり山野に生ぜ根は細竹に似て横行し處ゝ苗を生ぜ其幹細く青芋乃莖のごとくにて硬し直立ぜ葉は淡竹に似て薄く軟なり冬月は皆枯て春新苗を生ぜ蘆は總名にて初生を葭と云成長しなるを葦といふ荻は總名にて初生を菼と云長ぜるを乾と云長し極ゝるを萑と云

甘蕉

ミユサ　羅甸　バナヽ　荷蘭

元和産なく暖國の産なり甘蕉ハ荷蘭物印忙ニ寫生ゆり其形圖の如く水蕉ニ異ゆとなく但實を結ぶ是ニ二品あり實の形羊角の如く長ふして尖りゆるものハ即羊角蕉なり一種ハ形圓しを微尖り柿ニ似たるものハ牛乳蕉なり

一種　水蕉　そせそぞ　本名和名

本邦に多く栽の葉はすべ一尺餘長さ六七尺五六年を経るその樹高さ一丈餘圍り一二尺夏月梢に花を生ぜ莖一尺許節多く下垂す其末に花あり黄白色にして菡萏に似たり數十瓣相抱ぐ瓣ごとに蕊あり莖は本に實を生ぜ五稜ありて緑色熟せざりして落これ集解に云水蕉一名牙蕉草木疏なり華夷花木鳥獸珍玩考に云水蕉不結實山居人治以為布と云本邦にても此皮にて織なるを芭蕉布といふ漢名蕉萄秘傳花鏡嶺南雜記といふ葉は水腫病乃床下に敷又根を煎服すれば小便を通ず

牛乳蕉

羊角蕉

水芭蕉

一種

紅蕉

美人蕉

天和年中琉球なり渡ると本朝世事談に見ゆ苗葉芭蕉に似て低く幹三年を経ものに花をひらく形莪茂花に似て朱紅色久しふして謝せず故に是をも百日紅南雜記といふ華夷花木考に西番蓮といふ

蘘荷
めうが
人家多植生薑に似て
高大根傍に花を開く
形くまたけらんに似て
大に淡黄色秋に至
て實を結ぶ紅色乃
辨實を包む實白
色仁黒色なり

一種
さぶめうが
山中陰地に宿根なり生ず一莖に葉周りつき
房となりしく小白花を開き秋實を結ぶ
熟して碧色麥門冬實に似たり味淡く香
なし先輩此を杜若に充るは非なり是ハ
修治に雷敎の云處乃革牛草なり

麻黄

和産なし　真の麻黄ハ形木賊ニ似て細く中の穴甚小にしく少し　瓤ありて實するが如く肥大なるとのハ中空にして瓤なし　莖のこゝにて葉なし　根上枝とわかつ　舶来ハ丸肉に稀ニ花實乃附たるものゝ實の形外皮あり　一二分三稜ありて黄黒色なり　根ハ木乃如く指乃大さ黄赤色なるを

舶来麻黄腊葉

ゼーアルセニ

荷蘭ドゝニースに載る処乃圖ゼーハ海といふアルセニハ木賊の類

一種　かくらとくに

武州豊島郡水邊砂地ニ於て宿根より生ず　根ハ筋の如くにして細く黒色條理あり　葉ハなく莖ハ木賊ニ似て細く希に枝あり　希ニ花を生ずれハ形筆頭菜ニ似たり　蘓頌云俗説雄者無花不結實といふハ恐くハ是ならん　麻黄ニ代用べし

木賊　とくさ

蝦夷にてしぶくといふ山中溪澗に自生ゆり又人家にも植四時凋ぜ形ちてとくさに似て肥大小筆管の如くにして條理ゆり枝なく直立し中空なり根細く土中を蔓延し苗を生ぜ夏月莖頭に花あり形筆頭菜に似て肥大なり藥用にハ莖を採て暴乾したるよし木を磨するにハ塩湯を以て煮乾したるのへ性味脫ゑ

一種　しきとくさ

佐渡に産て形木賊に似て稍瘦て長さ四五尺におよぶ枝を生ずるのへ忘るとくはといふ花もとくはの如くして二三粤一処に附

問荊　附録　すぎれ

山野濕地に多し宿根より三月頃先花を生ず莖は木賊に似て淡紅色頭に花ゆり形筆頭の如し採て菜蔬とす是をはらしといふ漢名筆頭菜慶陽府志といふ四月より葉を生ず形麻黄に似て節ことに枝を生ず

石龍芻　いぬゐ

龍常草ゐぬ乃ゐぬまゝ水澤に植形状燈心草に似て扁し色にひらゐともいふ深緑色にして光澤ゆり冬凋ず高さ三四尺弱くして直立すれし

龍常草　ほそゐ

水澤中に生じ四時ともにあり形燈心草に似て頗彩緑色圓にして高さ三四尺夏月葉乃中央より穗を生じ形莞ゐに似て細く甚實稗の如し

燈心草　ゐ

總州に水陸ともにあり江州にては水田中に培養し形龍常草ゐに似て圓く長さ四五尺花實を視ず此類三四種あれども大同小異なり此草にて織たると近江席といふ中にて繼ぎつきたるは備後席なり

到用べし席に用たるは性味脫ぎ

藥用に生草を日乾し

本草圖譜卷之十七目録

濕草類

地黄（おかひめ） 二
一種 白矢（しろか）
胡面莽（こゆんもう） おまとめまう 三
川午膝（せんこしつ）
午膝（こしつ） いのくづち 四
一種 まいとりまう
紫菀（しをん） しをふ 五
一種 大坂しをん
一種 桔梗ゞ原しをん 六
一種 千本のきく
女菀（ぢよをん） ひめしをん
麥門冬（ばくもんとう） やまをげ 七

本草圖譜 卷之十六 澤園閣藏

一種 やぶらん 中葉
一種 白花 八
一種 のしらん 九
萱草 ほまれくさ 十
一種 せつていくさ 十一
一種 こうきけ
一種 みぎくけ
淡竹葉 さくくさ
一種 細葉
一種 ほうのひげ
一種 雞尾らん
一種 南蠻くるんさう
一種 ひめくるんさう 十二
一種 蠻産 十三
一種 きもけ 十四
鴨跡草 つゆくさ 十五
一種 白花 黄白雜る物
一種 近江の産 十六
一種 をかの里 十七
一種 白花 黒あふひ 十八
菟葵 ふくべら 千瓣 十九
一種 いちほんさう 廿
一種 白花 紫花 廿一
龍葵 うしわうつき 廿二
一種 圓葉の物
葵 かんあふひ
蜀葵 まるあふひ そまいへる
錦葵 せるあふひ
一種 せうぶんさう
一種 越後の産
黄蜀葵 ころく 漢種
龍珠 廿三

一種 いねかうつき
一種 ゑうらくかうつき
蜀羊泉 まるたのひよ どうしやうこ
鹿蹄草 いちやくさう 小葉いちやくさう
一種 いとめぐみ 信州の産
一種 あたこかうつき
酸漿 かうつき 廿四
苦蘵 てうせんかうつき 廿五
漆姑草 たかのつめ 三種 廿六
一種 紫花鹿蹄草 こくまうさう 廿七
一種 やまとうちた 廿八

本草圖譜卷之十七

東都 岩崎常正 著

濕草類

地黄

さわひめ 延喜式

メリツテス 荷蘭

藤頌の説に紅紫花と黄花と二種あるをいふ和産もまた赤矢白矢と二種にて凡て野生なし其赤矢は初夏宿根より生じ葉は初生の芥子に似て厚く深緑色にして皺紋毛茸にて茎互生し夏月茎を抽て七八寸梢の葉の間に花にて筒様にして末五瓣になりて胡麻の花に似て淡紅色根赤黄色にして人指の大さ長さ一二尺に及ぶ寒地にては十月掘採り陽地に貯へ置四五月に至りて出し一二寸宛に伐て栽るなり山城大和筑前にて多く作る

一種

白矢菜赤矢と同して稍淡緑色花黄色根亦黄白色にして皮薄く肉多く上品なり然れども赤矢より培養しかく腐やすくして利少きゆへ今栽るもの亦少し惜へし培養宜しければ却て赤矢より肥大になるなり

胡面莽

さいまとめさう

春宿根より生じ葉は地黄に似て花紅色形地黄に同し暖地にては四時葉なり根又地黄に似て乾きてときは枯瘦してそちゆるにたへず

桐花菜 清俗

一種　えいとうさう

山野陰地に多し春宿根より生じ葉は排草香の葉に似て香なし雲頭の鋸歯なり圓茎節高し對生し穗の形土午膝の如く實午膝と同し根も午膝に似て短し此苗葉を採飯に雜へ置蠅に毒し葉味渋し

紫菀　しをに　和名鈔

萬葉集にをこのしこくさと云集解の説にていはゆるこのしこくさは光るに穏なしされども先暫舊説に從ふ春宿根より生じ葉長さ二三尺本狹く末闊く秋月茎高さ四五尺捕に枝を分ち花あり形馬蘭花に似たり根鬚の如し

一種　大坂志をん

近年江戸にあり葉長さ四五寸茎高さ二尺許にて花ハ紫菀と同し

一種　桔梗が原のしをん

又御幕の内とも名けし不破の關に産けと朝倉義方云へり形状大坂志をんに似て又小雛兒腸よりふ似て深緑色光澤あり秋月茎高さ二尺許花ハ紫菀に似てちいさし

一種　千本のきく

又古ものきくとも云前種の類にて葉甚く狹く柳葉の如く一根叢生そ花ハ紫菀に似て小なり

女菀

ひめしをん

武州處々山野に多し春月宿根より生じ葉は旋覆花に似て狹く長初地に布後薹を起じ夏月高さ二三尺梢に枝を分ち花を開く白色にして碎瓣小菊の如し後白茹となる

麥門冬

やまなをけ　兵喜式

大葉の物をやぶくんと云葉濶さ七八分長さ一尺半許面深緑色にして背は淡緑建蘭の葉に似たり花穂をなして六瓣淡紫色又白花となり後實を結ぶ黒色にして大さ南燭子の如し又漢種の物なり大葉の物と同じ一種おきなぐさ大和本草一名さねりぐさ羽州長沢といふなり初生の葉黄白色又へつりらんといふ緑色に白き斑なり

白花
白菖蒲

一種　まうのひげ　江戸

山野に生ず又多く人家に栽る
葉濶さ一二分長さ一尺許扁く叢
生ず深緑色冬凋まず根に白色
の塊りあり天門冬に似て小なり
夏月葉の間より一茎を抽穂を
なし六瓣淡紫の花を開く冬に
至りて實碧色になる一種葉の
幅二分許長さ四五寸にして一花
ちとに實四五顆を結ぶものあり
熟して黒色なり

一種　のしらん

四時不凋葉は大葉
麦門冬に似て狭く
夏月白花を開き後
實を結び碧色なり
根に塊りなし

一種

けいひらん

葉は大葉麥門冬に似て下に垂て雛尾の形に似たり故に名づく花小にして黄白色穂に枝を生じ實小なり

萱草

春月宿根より生じ葉は蜀黍しをなし食ふ夏月一茎を抽て花を開く形百合に似て紅黄色千葉單葉の二品にして單瓣の物を採り食ふべし草花譜に草瓣者可食千瓣者食之殺人と云是は花を食ふべしを云ふ千瓣の物を湮名家

萱 茶子園 盂傳 とりふ一種そしくまたは尋常の品にて葉に白色の間道あるものなり是を文宣花 [illegible] 此類皆根に塊にして麥門冬に似たり

一種

せつていくか

萱草より兼短し四五月に花ひら單辨
純黄色なり是を灌名春萱 明灌園草木譜
以上二種華夷考に金萱花色純黄
と云是也

一種

ひめくるまんさう

苗高さ一尺餘にて
萱草より痩しかり花
六瓣にして紅黄色なり

一種
形ひめくるべきうの
如くすして花紅色
車類合壁云賞草
有紅紫ト云是ニ

一種
物印忙よ載る
裏の國
リヽユムナルシツ
シユス 和蘭

一種　ふきげ

又のゆりともいふ本曾
山中水澤邊に生じ葉は
紅をけなり稍狹く水澤
中に植花はかりをけし
同是物集解に時珍ゆ
説に南方草木状を引
く廣中一種水葱狀如
鹿葱常の萱草其花或喋
或黄蓋亦此類也云
是なり

一種　きさげ

野州日光山にあり葉は萱草より
狹長菅の葉に似たり花六瓣淡黄
色末の刻に開くまへひつしさきとなる

淡竹葉

さゝくさ

又そんどうさゝ 本草大義 ともいふ處々山中に生じ春宿根より生じ初生竹の如く葉も全く竹の如く高さ二尺許り枝なし秋月穂を生じ形雀麥ひきに似て瘦くらゝ也れを觸れば人衣を刺す秋月苗枯る其形鬚ありて處々塊あり形麥門冬に似て硬し

鴨跖草

つゆくさ

尋常の物

荒野に多し春月
實なり生ひ竹の葉に
似て厚く軟に圓茎
互生し節の間より
鬚根を生ひ其形鳥
の觜に似たり其中に
花を開く二瓣にて
青碧色又白花も
たり又青色にして
周り黄白色なるもあり
又紫色を帯るもあり

圓葉の物

白花の物

黄白交る物

一種　ひろしがろし　尾州

大和及び近江
の栗本郡山田
村にて植るもの
は苗葉大にして
高さ二三尺直立
す花も尋常の
品より倍せり此
花を早朝に摘て
汁を絞り紙に
染しなるべきて
よりふ染家の下
繪に用ひまゝ
燈籠等の画
具に用ひ

葵

かん
あふひ

古い五葉の一ふしして食用ひさゝる單に葵といふは冬葵を指なり武州品川に自生ひ喬幹なるも生ひ葉ハ圓くして邊に雲頭の如き鋸齒ひ葉を掌の大さなり高さ三四尺圓茎にして互生し春夏葉間に五瓣の白花を開く錦葵に似て小なり實ハ蜀葵に似て甚小なり其葉菜となして素滑なり

一種

たかのこ

形状冬葵に似て葉の周りうねりて皺あり花實も冬葵に同じ葉を採暴に乾し微炮り揉て煮物へ振り付食ハ味ひ乾苔に似ち故にたかのこと名ゆく

錦葵 集解

せきあふひ

人家に栽葉は冬葵に似て圓く茴麻ひらの如く
茎高さ三四尺梅雨の中葉の間に花を開く五瓣
淡紅色にして紫色の堅筋あり大き錢の如し故
に漢土にても錢葵秘傳花鏡といふ爾雅に莪といふ
註に其花大如五銖錢粉紅色紫縷紋ありと
云ひしまた白花ありもあり

菟葵 ふくべ

山足陰地に二月頃宿根
より生ひ在處には他草なく
但此物のみ多し葉は牛扁
に似て小く牻牛兒苗
に似て白点あり一根叢
生し從て一茎を抽て花を
開く大き白梅の如し此物
必一茎二花あり故に又小
ふくべ夏月苗枯
る根は烏頭に似ていさゝ
て連珠をなせり

一種

八重のふくべ葉ふくべらに似て稍
小く初生紫色を帶ふ一茎二萼其花白色
千葉の梅花に似たり根も前種と同し

一種　せろぶんさう

相州箕根其外山足にいう
山中にては節分の頃生ひ人家
に栽るときは正二月に生ひ葉烏
頭ぶきに似て小く茎長さ二寸許
一茎一花を開く五瓣白色梅花の
如し根に圓き塊りにして延胡
索に似て黒褐なり以上三種藥
恭説ところの物是なり

一種　いちりんさう

又一花さうともいふ
春月山足の隱處に
生ひ初生紫色長さ
れ緑色せつぶんさう
葉に似て大にして花
又多く背紫紅色
葉の中一花を開く
五瓣白花微紅色を
帯ふ根釵股の如く
又筋の如く黄白色
土中を延郵撫通志
の天葵峒嶁神書紫
背天葵は此類なるべし

一種

越後信州等に産するものは葉大にして
牡丹の形にて苗高さ三寸許一葉一花なり花
五瓣或は七八瓣にて長く白色に微紅色を帶
へ根の形一つなんさうと同じ又千葉の物もあり

一種

苗葉小にして花紫碧色の
物あり　又宗奭説ところの
菟葵に先輩きんせんくは一名
朝露さうを充つ是も高さ
二三尺に及ぶ夏秋の間花を
開くものなりに宗奭云其形
至小中農菟葵鷺麥動搖
春風をもるおとられは穏なれ
きんせんくはは敷荒本草の
野西瓜苗なり

漢種と稱するものなり
苗長大葉に岐深く細し
花は前種と同じくして大
なること四五寸

黄蜀葵
とろく

一種
山吉貝
明ノ薩園草木識

春月末に實を下して生じ初生ハ蛇筍葉の如く
圓茎五生し梢の葉ハ五尖ありて大麻の葉の如く
秋葉の間に五瓣の黄花を開く花心紅紫色本槿
花に似て稍大なり後角を結ぶ形胡麻に似て五稜
ありて毛茸あり熟すれハ黒色内に仁ありて其形攝猴
の面に似たり故にまるかくさくしと云
此根乾て紙を漉粘に用ゆ
故にねりきといふ

龍葵　うしわうづき

又いぬわうづきといふ圓
圓春月實なり生じ葉ハ酸
漿わうづきに似て多く枝を分ち
夏月五瓣の小白花を開き
實を結ぶ熟して黒色簇生
を冬月苗根となる枯る

龍珠　えたるわうづき

又やまわうづきともいふ
山野にあり春月宿根
より生じ葉ハ商陸に
似て小く多く枝を分ち
葉枝間に五瓣の淡黄
色の花を開く形酸漿
の花に似て小く後實を
結ぶ圓實の番椒に
紅色なること白英に
ゆゑに似たり

一種

いわわうづき

苗葉龍珠の如く但其實稍曼陀羅華に似て少く又茄に似て緑色小し

酸漿　わうづき

勢州布引山の傍わうづき谷に自生多し又人家多栽春月宿根より生ひ葉は茄に似て紫色なり一節に二葉並ひつき其間より花を開く一瓣にて五尖なり茄花に似て黄白色後實を結ぶ殻の形燈籠の如く又楽華子の如し熟すれば紅色なり中の實母指頭の大さにて正圓なり奥州に又一殻の中に實二箇並着るのあり一種丹波わうづきは形状尋常のわうづきに似て葉茎長大殻長くして尖あり實も又大なり

一種　ゑうらくわうづき

茎葉酸漿と同じ
但其實圓殼なくして形
瓔珞の如く後紅色なり

苦蘵　釋名

てうせんわうづき

春夏の間園圃の
中に實より生じ苗
矮短して枝多く葉
實ともに酸漿に似て
小く熟しても緑色なり
酸漿より實を結ぶ
こと多きゆへせんあう
わうづきとてゆへ

蜀羊泉

まるものひよう

しやうご

又いぬくことと云越後陸奥下総武州本所等の原野に生ひ春月舊根より苗を生ひ茎は白英に似て葉は枸杞に似たり花は五瓣紫色實も枸杞に似たり味ひ酸甘し

漆姑草 集解 蠡器

たかのつめ

人家庭際乞多し小草なり松根に等の苗に似て軟に又鹹蓬なるに似て又小なり小白花を開き小葫蘆を結ぶ一種安房の産は苗大にして葉長さ七八分にして一種信州御嶽の産是又長大にして花殊に大きし

御嶽産

安房産

鹿蹄草

いちやくさう

處々山中陰地に生じ四時凋ぬ葉ハ杜衡に似て深緑色光澤あり亀甲紋あり故にべつかくさう

とも云夏月一茎を抽て六瓣の白花連生し後天茄子うしのかきの如き實を結ぶ其形鈴を垂るゝ故に又をくらんとも云

一種　小葉のいちやくさう

深山中に生じ四時ともにあり一茎高さ一寸許頂に三四葉生じ根本ハ似て紫を帯ぶ中心に一花を開き實を結ぶ形鹿蹄草と同じ

一種

尾州より紫花の鹿蹄草と称するものあり赤鹿蹄草より狭く茎細く蔓の如く花淡紫色なり野州日光山にもあり

一種

とくてうさう

越後に産じ花五瓣淡紅色大にして桃花の如し

一種

いとかくこ

處を深山岩石の間に
生い四時凋まず根蔓
の如く鬚ある葉圓くして
硬く光澤ある粗き鋸齒ある
短き穗を抽て小白花を開き實
を結ぶ形狀鹿蹄草と同じ

武州
御嶽産

一種

やまと
うちも

諸國山中にある葉は
岩かくこより厚く大に
して微紅紫を帶び花
穗をなして形石竹に
似て小く淡紅色

一種

本草圖譜卷之十八目錄

隰草類

敗醬	をとこめし	
一種	をとこめし	もみしまのおとなへし
迎春花	ひしまひ	四
一種	紫ぬき	五
一種	秋田ふき	六
一種	ゑそふき	七
一種	をとこめし	もみしまのおとなへし
一種		
款冬	かまふき	
一種	みぼふき	
一種	ちりめんふき	てうせんふき
索吾	つまうふき	

一種　かなつまふき　八
一種　ちまめんふき　九
鼠麴草　たちくさ　たとこぐさ　十一
決明　十二
茳芏　七鼻　十四
一種　そまかりき
一種　大坂あてしき　數種
一種　あんちやへる　江きりちん
一種　たまつまふき
一種　かんつまふき　十
一種　秋のたまつさ
一種　たふさう　十三
地膚　たくきう　十五
瞿麥　のなてしき　十六
一種　石竹　數種　十七
一種　かとらあてしこ　十八

一種　まきさくら
一種　たまなてしこ
一種　かまらけし　廿
一種　蝦蟆の産　廿一
一種　てうせん　井手の里　廿二
剪夏羅　かんひ　白かんひ
一種　ひらんし　つらせんおふ
一種　蟲産
一種　かんあてしき　十九
王不留行
一種　たちあふ
剪春羅　まつもとせんおかけ
一種　えんひせん
一種　車かんひ　白根かんひ　廿三
剪秋羅　ひきせんおふ　白花　廿四
一種　秋せんおふ　廿五

一種　小倉せんおふ　石楯せんおふ

本草圖譜卷之十八

東都　岩崎常正　著

隰草類

敗醬　をとこめし　万葉集

山中に有り春月宿根より生ず葉は菊に似て甚く長大初め地に布秋月円莖対生し高さ二三尺梢蘭草に似て五瓣の小黄花族生の後莢峯枫はこの如き莢を結ぶ一種形状同して夏月花あるもけらる根は蒿根の如くにして粗く敗る將酉の臭気あり故に名はく

一種　をとこめし　是又山野に多し苗葉大にして白毛あり秋月花を開くをこなつしの同して但白花なり此時珍説とする是之

一種　下野日光山及び武州御嶽山にもあり初加及白山より採るる白山をとこめしこれに葉はもこちに似て高さ一尺余花黄色にて尋常の品に同し

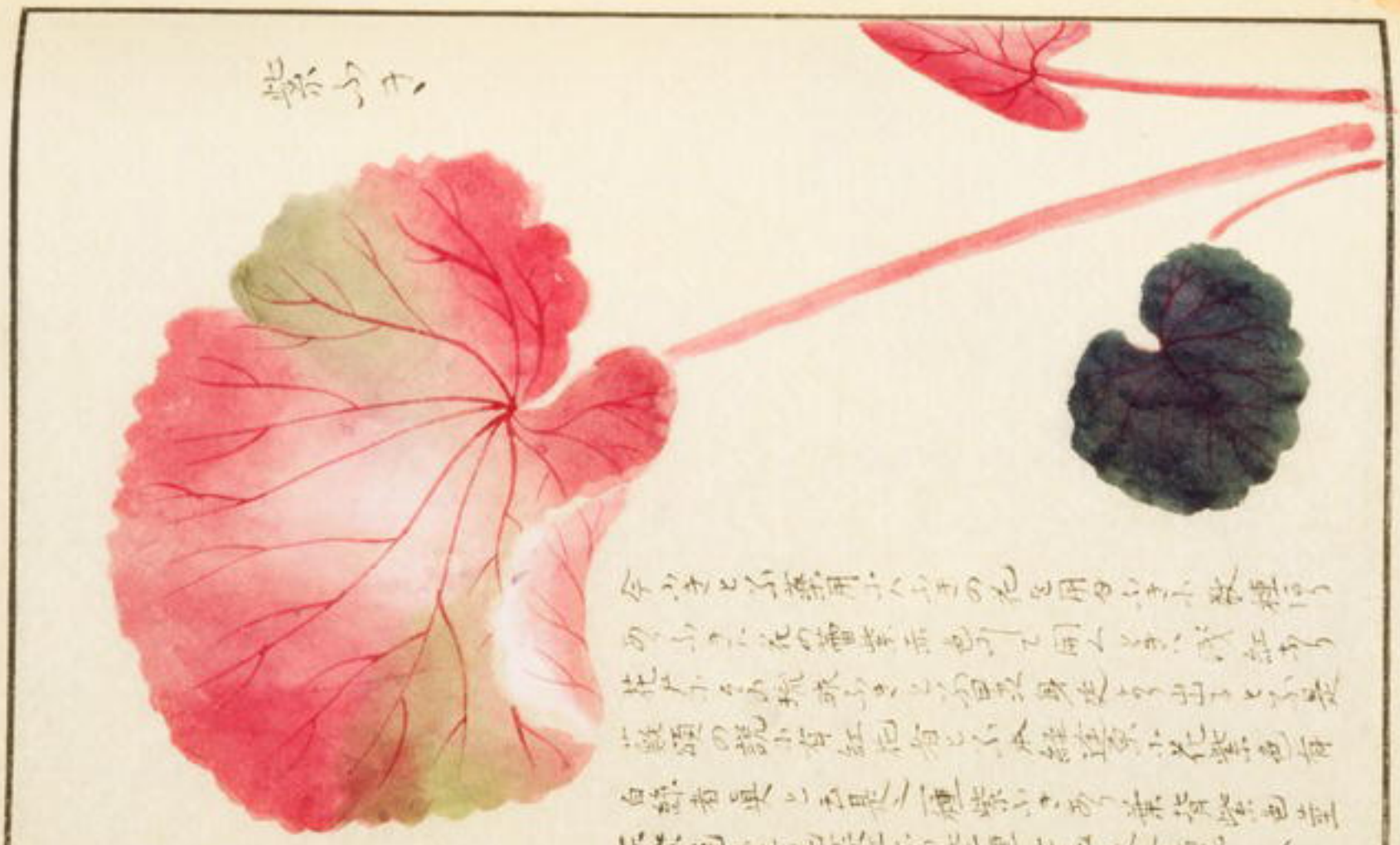
敗醬

をとさめし

もみし葉のをとさめし

迎春花
いつもいう

本草圖譜　卷之十八



一種　ミつふき

又曰ふきともいふ莖葉淡綠色葉甚こまかなれ徑一尺余高さ二尺許り春月莖を食用ス

一種　秋田ぶき

此種羽及ます出莖根に近き処淡紅色莖に糸あり苦味なり此一種食用に上品なり

一種
ゑんさうふき
此種蝦夷より来る葉甚さ
火にして莖葉甚さ大にして
莖葉白色あり旅の人急
吶之時採て傘に代て雨
に凌く大き程り六七
尺莖甚さ
肥大柱の如く稜
あり高さ七八尺味ひ淡し
下品なり弘景の説に高
麗百済より出るもの大剤
花の如し此来ちがくし

一種
てうせんふき
葉の辺離に
深緑色にして
光澤あり花
白色なり
一種
ちりそん
ふき
是は莖大にして花味に数
十顆を生ず故に此ならず
とも云苦味あり食用に
下品なり

服せれハ薬毒を解せ但砂糖と同しく食せれハ甚しきハ死ト至る

索吾 秋石 つたふき

歟冬の一石とせるも誤りなること通雅に解せる史游急就草に土夏見失索吾歟冬とあるに索吾似歟冬而有糸生陸地花黄八色一名獸須と云に拠りて先輩つたふきとしたつたふき相並紀及等にハ山野に自生あり葉ハ歟冬に似て厚く冬凋まれ又葉の周尖被ありたかゝるつたふきとふり日葉を抽て花ゆうさんをひきうに似たり莖に黄白色の糸ゆう生の葉を採り腫物の上に貼れいよく膿を吸出せ葉を日に乾し

一種
とろつも
ぶき
乾鮮つもふ
きとも つふ
葉蓋と大
ひふしと一
尺餘ゆ

一種

又牡丹つもふきぎもの小葉の周り皺し形状鮮冠花の如く花も又よれたり

一種　ゆんつまぶす

嫩葉小白毛沙の
綿の如く長さ尺ハ
葉長小一寸半廣の
如く小さ小一寸半地ハ
冬月莖を掘一て
花ある形状東音
と同一

鬼の鬼の草

又鬼の鬼の草
夫雅
蓑錄

又鬼の鬼の草と小さ雅葉の一寸の山野又園中ある
あり秋月ゆるさ生ず葉の甲方ゆるさ小ゆるさ生
一白毛沙の綿の如く春の秋ハ高さ七八寸根
末ゆる枝を分ち梢ハ黄色の花ゆる形ゆる面ハ
秋ゆる白葉ゆる也面ゆる梢ハ雑ゆ一種ゆ
と小さ小さ一寸ゆる平根の地ゆるくまれてゆる
ゆるゆる面ゆる梢ゆる梢ゆる梢ゆる梢ゆる
ゆるゆる梢ゆる梢ゆる梢ゆる梢ゆる梢ゆる

一種

秋のあとにふくさ

秋月実ありて生嫩苗ハ鼠麹草ニ似て面背共ニ白きもうして綿の如く夏月高さ二尺許り花ハ鼠麹草の如し秋ハ苗根ともに枯る

決明

カシヤア 荷蘭

享保年中漢種渡り今處々藥圃に載せ四月種を下して生れ一莖に六葉対生して
[illegible]豆[illegible]の葉の如く其一葉本狹くして未凋し其一葉ハ円莖互生也夏月莖高さ二三
尺葉の間に五瓣の黄花を開く形梅花に似たり花の心に莢を結ぶ長さ一尺許四稜にて
中に実ありて緑豆の大にきにして茶褐色形馬蹄に似たり藥用に上品之即ち弘景説ところの
馬蹄決明是なり

二種

ちうふきう

琉球方言 ガブハミヘヒ
共に反鼻の音轉なり

琉球より種来る彼國にハ毒蛇多し是を載て蛇を避ると云ふ三四月種を下して生れ葉ハ馬
蹄決明に似て尖りて狹し槐葉の如く六葉八葉対生れ秋月莖高さ三四尺枝を分ち梢に穂を
成し五瓣の黄を開く又馬蹄決明に似たり後莢を結ぶ円長さ三四寸熟せ小ハ赤褐
色莢の中に実のり円して扁く黄蜀葵子に似て緑褐色なり此物即ち新書三十六番義生蛇
要に云蛇滅門草此草人家種て以辟蛇此草形如草決明子葉実作角と云又発
明に時珍相感志を引て云國中種決明蛇不敢入丹溪朱氏言決明解蛇毒亦於此なり
と云を見れハ決明し又蛇を辟るなり全く一類なること知るべし即ち時珍の説に茫芒決
明ハ槐葉に似て角二寸許中子知黄葵子なりと而扁とに是之又備急本草周弗決明子
救荒本草の望江南花暦百詠の江南豆皆同物なり時珍又茫芒を附録に出せハ重出なり
是又ハいかなり又ちかなり又山扁豆を同物とせるハ誤なり山扁豆ハきつねぢんまとなり
救荒本草の説に詳かなり附録の合明草ハ田字草加磯通石なり水草部蘋類に圖あり

其原篤信ハ七島を主つ薩摩の七島ニ帰ル鐵製ハ長さ五
球表ニ以テ水濕の地ニ載荒ハ多ニ似テ細ク燈心草ニ似テ稍扁ニ肥ヨリ

地膚

すゝきぐ

俗ニすゝきぐ春月実を下して其葉ハ卷耳ゐのこ似て長く深緑色密ニ互生ニ
夏月高さ二三尺ニ白花を開き小実を結ぶ此以食用ニ好シ鳥目の病ニ一両度食ヘバ愈
又朝鮮ヨリ、きゝハ形状相似ニ根の上ヲ放ケ生ヲ並肥大ニして紫色高さ三四尺此以乾して
蒂とす

一種　むなはたらき

瞿麥　あてしよ

是は野あてしこある山野陽地に作る宿根なり生ず葉は地膚に似て出る淡黄綠色対生を秋月高さ二三尺梢に長き幕を生ず五瓣の淡紅花を開く大さ銭の如く花瓣半に細かして線の如く後長角を結ぶ中に黒き扁き子多くなり又白花もなり

一種
大坂あるしこ

又伊勢あるしこともふ花大にして糸長く江白淡江又淡紫色紅白雜り千葉等の數品、なり此物実ある生色ハ花色変化多一なしにて小時珍説とおちの洛陽花なり又聖麥

石竹を同物とするハ誤りあるあと通雅に辨ル

一種
まんしゅしこ

石竹 通名
一名
大南竹 郡安府志

一種
いきりん
又ものひしとも云

海辺の砂地に宜し江戸成所にて多く栽り花色多草花譜の江麥の趣く

一種

なんちやべう

紅きなん

葉狹長ふして硬く根上に叢生し莖高さ二三尺花千辨紅白又雜色なり十五城郷不花雀色於らんゝ等数品あり

一種

かもらなでしこ

又ふしなでしこと云秋月実を下して生れ春に至て高さ五六寸葉硬して光澤あり花八瓣色麥に似て糸ありて浅き鋸歯あり紅白の二品あり

白花

一種　もちさんら

處々海濱に生ず
葉ハかしあたしに
に似て凋大にして
各凋まり花瓣円
にして櫻の如し

一種　かんあてしよ

琉球より來る形狀はま
ゆくらに似て立冬比花を
賜し又もちさんらに似
て紅色紫の心にて美し
寒地にて八月せん

一種　もまなてしよ

実に生ず海辺に多し葉ハかしあたしに似て
短く圓く密に互生を高さ三四寸梢に穗をなして
五瓣の白花を開き円き実を結ぶ形星宿草
ゆまもらのもの実に似たり

王不留行

一名　木藍子　張寧江都志

古へ江戸道灌山に薬園ありし此種たまく生ずるはり因て道灌草と名つく今ハ絶てあり今漢樗のものあくはり秋月種を下して生れ葉ハ豊麥に似て濃く粉緑色丹き莖に対生し冬を経て春に至り莖高さ二尺許り梢に枝を分ち末を小一房を生れ形鎰に似て尖れり五瓣の深紅花を開くかすかあてしてる似て梢に匏後其房円大にして指頭の大き中に細き

黒子はり　蘇子より大なり薬用にしし

一種　かまらけし

又大坂より寺島和漢ともに山野に多し宿根より生れ葉ハ前夏羅に似て円莖対生し節紫黒色故に又ふしくろとも云梢の葉ハ狭く王不留行葉に似たり夏月莖高さ二三尺梢の葉間に五瓣の白花を開く叉王不留行に似たり其殻円にして形鎰に葉殻かしに似て小し故にけしの名はり備忌本草成徳軍の王不留行是なり又救荒本草の女蔓菜も同物なり此根頗る人参に似たらやくさつまうんもんとも云

一種

春月宿根より生ず葉ハ小菓菜[illegible]似て大ニ又槐葉[illegible]似て軟なり夏月莖高さ二尺許梢ニ枝を分ち五瓣の小花を開く紫碧色にして形ニ桔梗ニ似たり後円き実を結ぶ梢玉不当行ニ似たり白花の物有

此物蘇頌の説ニ亦有槐葉似者四月花開黄紫葉澄類ニ単布色隨重而生如蒜子此と云是なり同説ニ白鮮ニ[illegible]

一種

蝦夷に産ほうたなしめぶハ苗葉共に大にして紫藤ハの葉の如く花ハ大にして桔梗の如し

剪　春　羅

まつもとせんたふけ

野生なし人家に多く栽る
春宿根あり生花葉は
白微ありなりに似て円並
對生也春の末梢に花を
開く五瓣にして形石竹に
似て大小鋸齒淺し花
瓣四あり紅白雜色等
あり

一種　とうせん

高さ一尺許り
花白色にして
紅き絞りあり

一種　いてのさと

高さ一尺余花
白色にして微し
黄色を帯ふ

一種　燕尾せん

葉小にして狹く高さ一尺余花も小く瓣に尖角ある燕の尾に似たり朱紅色へ

前カ夏羅　かんび

處々山野自生ありせんあふに似て硬く夏月花ありて形石竹花に似て丹色なり又白花もあり

一種　車がんひ

四五葉對生一重の頭に小き葉ありまた葉間ありて花を開く丹紅色なり

一種　白根がんひ

下野白根山に産れ葉狹く長く莖四ケ一て細く高さ一尺余花白色にして小し

一種　ひらんし

茵葉矮短にして葉ハ白根がんひに似て紫色を帯ふ花瓣狹ケして紅色なり

一種　つるせんかふ

又大山もこへにも多ふ武州目白辺自生なり宿根より生葉ハ蘗縷に似て尖く莖軟弱にて蔓の如く花白色五瓣蟹の鬣に似たり後に円子を結ぶ熟して黒色なり此形殷荒本草の釣筋草之

剪秋羅

形状剪春羅に似て花の形薔薇ばかり似たり紅白淡紅の数品あり

アキセンオフ

一種

長ハ西本草物印把の圖なり葉長くして七あり

一種

苗葉小く花八月開く朱紅色なり

一種　小倉せんおふ

葉ハ狹く王不留行葉の如く七月花を開く花瓣狹し

一種　石榴せんおふ

花の形石榴子の如く八重なり故小名つく

本草圖譜卷之十九目録

濕草類

金盞草　きんせんハ　一
一種　ワらごんさう
葶藶　いぬるつるたたさか　二
一種　大角はこざか
車前子　おおばこ　三
一種　さかきおおばこ　三井寺の産
一種　てうせんおおばこ　蠻産
一種　漢種の物　やくまくおおばこ　四
一種　蝦夷の産
狗舌草　さんをんはんまうさう　五
一種　おうりんくさ
馬鞭草　くまつゞら　六

龍芽草 釋名	きんぷつひき	
紫背龍芽	たいこんな	
女青	へくそかつら	
一種	相州の産 こまとぐめ	
狗尾草	ゑぬのこゝき 同長大なる物	
一種	ぬまだいこん	
一種	つきぬきおとぎり	
一種	ひめをとぎり みつをとぎり	
蛇含	さまんだい	七
一種		八
鼠尾草	たむらさう 同白花	九
狼把草	たらこき	十
鱧腸	たかさぶろう	十一
連翹	おかをとぎり	十二
一種	小連翹 伊吹をとぎり	十三
一種	金絲桃	十四
一種	金絲梅	
萠藋	そくづ	
菘藍		
雀翹	うるきつる	十八
一種	をらんだな	十九
一種	木本の物	十五
藍	たでたい 同大葉	十六
木藍	さまつるき	十七
甘藍	えがたん	

本草圖譜卷之十九

東都　岩崎常正　箸

濕草類

金盞草　きんせんくハ

人家に栽實を下して生ず葉は萵苣に似て少し叢生夏秋の間莖高さ三寸許り梢ことに花を開形旋覆花なるまに似て紅黄色半開なるあと盞の形の如く實の形屈曲して虫に似たり

一種

ワラおんさう

人家稀に栽春月宿根より生じ葉ハきんせんくハに似て濶大に又萵苣ちさやに似て緑色夏月花を開く千瓣にて黄紅色形蒲公英ゆきに似たり

亭歴

いぬなづな

又をなづなともいふ山野の陽地に多く秋月實より生じ葉ハ雞児腸なるに似て小く厚くも茸なり味甘く辛く初春莖高さ二三寸枝を分ち穗をなす四瓣の小き花を開ぬの花に似たり後扁き莢を結ぶ形米粒の如中に細き子なり茶褐色味微辛く葶藶甜苦の二種あり甜葶藶ハ薺なるの實なり苦葶藶和産詳なれど近頃救荒本草の遏藍菜なるの實を用ひとも子大にて悪臭なり

一種

たたさを

一種　たゞはこざを

一説に狗苡草ハ蘇頌の説に生角細長といふはたゞさをなり山野に多し秋月實ゟ生ル初生地に布葉頭圓し春月莖高さ二三尺梢穗になり四瓣の小白花を開き後角を結ぶ細長にして箸の如し長さ四五寸中に細子なり一種たゞはこざをハ海濱に生ル葉粉緑色にして大なり此二種共に敕荒本草の南苡米之

車前子　おほばこ　延喜式

今おほばこといふ隨地道傍甚多し宿根あり生ル葉ハ澤瀉に似て短く夏月葉の間に穗を生ル長さ二三寸實ハ葶藶に似たり

一種　琉球おほばこ

葉圓く厚く深緑色にして光澤なり

しろみおほばこともいふ

一種　江州三井寺の産

苗甚小にして葉ハ小指の大さまで穗ハ短小なり

一種
朝鮮おおばこ
一種
又とうおおばこともいふ
葉長大澤瀉の如く穂
長さ二尺許岐を生ぜ
泰西物印化小
載る所の車前

一種
一種
葉の周り切
て益母葉の
如きものなり
一種
二岐おおばこ
漢種の物葉濶大なりて一
莖二葉を生根上紫色
あり穂小岐を生又穂の形
帯の如きあるをあらきおお
ばこといふ

一種

蝦夷の産ハ土名うませさといふ葉ハ毛茸ありて根上紫色なり

狗舌草　さハをゝるま　大和本草

又ゝきぎく紵ともいふ水邊又原野にあり春月宿根より生ゝ葉ハ旋覆花葉に似て長く厚ク白毛多し莖高さ二三尺梢に八九萬ありて形蒙吾に似て後白茹となる

一種　くよりさう

千葉のかゝさハぎくなり形状さハをゝるまに似て花ハ千葉黄菊の如し

一種

こうもんくさ

信州和田峠草津等ニ有ル春月宿根ヨリ生ス狗舌草ニ似て毛茸ヲ有ク根上微紫色葉濶ク夏月花ヲ有ク單瓣紅黄色形槖吾ニ似ル

馬鞭草

海邊原野ニ多ク春宿根ヨリ生ス葉ハ荒蔚ニ似ル梢の葉ニ似て尖大或ハ三尖ヲ有ク方莖對牛夏月穗を有ク小紫の花を開く穗の形龍芽草ニ似ル又白花も有ク

龍芽草

釋名

馬鞭草の釋名に入るハ誤なり此を蘇頌圖經に載る處なり即ち救荒本草の龍芽菜にて圖もなり和名なし

えさう江戸葉の蘿蔔に似たるゆゑ名づく又きんぐひきともいふ又ムきのもう

白屈菜と同名なり上總九十九里方言瘡の王と云意にて諸の腫物に用て効ある名づく所方に發背癰毒に用ゆるハ龍芽草亦備急本草江寧府芽子是なり山野に多し

春宿根より生じ葉ハ紫背龍芽大葉のたいこんぎに似て空く米一莖に七葉九葉對生間に小葉を雜る形

菜服うなの葉に似て夏月穗を生じて六七寸五瓣の小黃花を開く後毛刺ある毬を結ぶ形ちつぶに似て小なり人衣に粘着し根ハ指の大にて黑色味酸

蛇含

おきんだい

春宿根より生じ根ハ筋の如く土中に延處々苗を生じ葉ハ蛇苺に似て五尖或ハ七尖なり根二三葉其葉の中より夏月細莖を抽て二寸許り末に花を開く形梅花に似て黃色形大葉のたいこんぎに似たり

紫背龍芽 釋名

だいえる 大和本草

一種

蘓頌圖經に載蛇含とは自ら別種ゆて大葉のだいえさうなり又さいまつるぎ大坂ともいふ俗に八丈草とも
いふ鹹草と同名なり山野に多し宿根より生じ葉は蘿蔔に似て圓く嫩葉はさいまつるぎに似て背紫色
大葉七九小葉五七對生じ夏月莖高さ三四尺枝梢に五瓣の黄花を開く形蛇苺に似たり後毬を結ぶ
風毬に似て小なり根數條ありて黒褐色乾は類る丁香の氣あり葉味辛く微渋

葉に花叉多きもの花
實尋常の品に同じ

鼠尾草

たまがさぐさ

又ゑめあづわともいふ山野に多くあり春月宿根より生じ葉は楝に或は鬼針草なるに似て皺あり背紫色方莖對牛秋月莖高さ二尺許穗をなして花を開く形蘇花に似て大なり又益母花に似て碧色なり又白花の物あり

ひやうさうと云

女青

二說あり別錄にては蛇含根なり蘇恭の說に葉似蘿藦と云又莖葉並臭ると云物は△△そかつら又きうしゝ荒野に多く蔓生なり舊莖より生じ葉は蘿藦に似て薄く白汁なり又忍冬葉に似て尖長く對生し夏月五瓣の花を旋生し白色紅心形狀番繡毬に似たり莖葉甚だ臭氣なり

一種

相州塔の澤又野州朝熊山に産し矮生にて高さ三四寸春月花ありて碧色あり

一種 さはとごめ 尾州

大和に産し苗矮小にて高さ三寸莖ハ紫色にて花ハ純白之

狼把草 たうさぎ 山城

又ゆくさぎ 近ともいふ水邊湿地に多し春月實より生し葉ハ蘭草ゆくさに似て丑尖あり又ちんこうさに似て小く周りに鋸歯あり對生し秋月莖高さ三尺枝を分ち蒼を生し形三七に似て花瓣短黄色あり實ハ鬼針草に似て棘針あり人衣に粘し

狗尾草

ゑぬのこゞさ 和名鈔

今ゑのころ〻さと云山野道傍甚さ多し苗葉粟に似て小く秋月莖高さ二尺許粟の穗に似て毛多し紫色を帶ぶ形狗の尾に似たり釈名の茎は大ゝさ〻て又さびゑともいふ穀の部稈の條に詳なり

一種

長大なる物

鱧腸

たかさぶろう

いちやぐち 江戸

春月實より生じ圓莖對生葉は鳳仙花に似て厚莖葉を摘は其汁黒色にある夏莖高さ四寸枝を分ちて梢をに房を生じ形蓮房に似たり白色細瓣の花にて房中に實にて胡麻に似たり

連翹

をかみとぎり

又ぎやうをときりといふ人家に栽るものゆゑ春月宿根より生じ葉は金絲桃に似て狹長くをときりそうに似て甚長大なり莖黄赤色にして直立高さ三四尺夏月梢に花ゆ五瓣黄色又金絲桃に似たり後莢を結ぶ圓にて尖り五ツに裂る節ゆゑ下に五尖ゆゑ帯ゆゑ蘇頌の説に大翹は高さ三四尺獨莖と云是なり先輩木本の小へげうを充るは穩なるべし

一種

ぬまだいあん 京

大葉の鱧腸なり水湿の地に生じ高さ三四尺葉は紫蘇に似て長く對生し花の形狼把草に似て淡黄色之

一種　つきぬきをときうさう

莖葉大翹に似て高さ一尺許莖ハ葉の中を貫く花小にして五瓣をときうさうに同

一種　をときうさう

此物鷹の妙藥なり古養鷹の家にて子相傳なり此ハ其兄あれを知りて弟を切害し因て此草を弟切草といふを畧てをときうさうといふなり山野に多し葉ハ水楊に似て短く圓く圓莖對生夏月梢に枝を分ち五瓣の小黃花を開く實ハ大翹に似て小く莢頭五ツに刻ひて中に細黑子ゆり花葉とも小紫紅色を染し此花を六月土用の中に摘て胡麻油に浸し貯へ金瘡打撲等小傳て良切ゆり是小連翹なり

一種　伊吹をときうさう

莖葉細小にして地に攝し花實をときうさうと同

一種　ひめをときり

葉甚小にして雀舌草に似たり
高さ二寸に過ぎ花實皆小なり

一種　こうぞをときり

又みぞかみきともいへ水邊湿地
に多く宿根なり生ぜ葉をときり
さらに似て
稍圓く莖
淡紅色高
さ二尺許り花も相似て紅色なり
遵生八牋に水木樨花色如密
香與木樨同味唯草本耳亦
在二月分種一名指田用葉搗
加礬泥染指紅於鳳仙葉
と云是なり

一種

金絲桃 三才圖會
ひやうやうぎ
金絲海棠 廣東新語

小木細莖葉ハ水楊ニ似て花ハ大翹ニ似て
蕊長ク黄色實も又大翹ニ同じ三才圖會
云如桃而心有黄鬚鋪散花外若金絲
然亦根下劈開分種畫譜所言亦同

一種

金絲梅　致富全書

金絲蝴蝶　花曆百詠

小木なり葉圓して稍尖り對生し春月大さ八分許り五瓣黃花を開く形狀小連翹に似て大なり實ハ金絲桃に似て稍圓し

一種

いたちたせ　和名鈔實自ら裂るゆへたせといふの故

俗間ナルを火げうと云木本なり庭際に多栽す葉ハうつきに似て三尖枝ゆつく葉ハ一尖になる救荒本草の圖に似ろ方莖對生小木ハ枝弱く藤木の如く下に垂る老木ハ枝直立し花ハ小木なり開く早春四瓣の黃花を開く老木に實を結ぶ尖りなりて二ツに裂る此物集解の南方醫家說を引て云連翹有兩種一種似椿實之未開者殼小堅而外完無跗萼剖之則中解氣甚芳馥其實纔乾振之皆落不着莖也と云是大翹小翹の外一說なり

葫藋

そくどく　和名鈔　そくづ

又くさだつ　接骨木をたつといふ
つゞ名處々荒野に多し春宿
根より生じ葉ハ接骨木に似
て稍大に葉ハ節に對生し
夏月梢に細枝を分つ小白
花族生し是陸英なり實
熟して紅色又ゆいとちに
似つり水英ハ詳ならず

藍

たてあゐ　和名鈔　大葉の物

今たてあゐといふ
染家及藥用とす
る蓼藍なり春
實を下して生紫
蓼にそれに似て紅色
なり節間紅く又大
葉の花なり夏秋
の間穗をなし紅
花を開く形ち紅
草にそれに似て短
實ハ蓼の如し

卷葉の物

尋常の品

菘　藍 集解

イサキス 羅甸　ウヱーニア 和蘭

江南大青 清俗

都て藍ハ夏月刈て土の上に置てあるをかけ少しおきハ青色に成るあれが砂土を加へて塊とするを玉ゆねといふ一番にて上品なり又其刈る跡の根株より又生するを刈て塊に作るあれ二番なり三番にて製し三ヶ人ハ色淺ク下品なり

荷蘭にて染物に用る説あり享保年中藍二種船来ハ八浙江大青と云即ち蓼藍なり一ハ江南大青といふ即ち菘藍なり稍實を下して生ハ葉ハ菘に似て鋸歯あり粉緑色冬凋し春に至て高さ三四尺梢に枝を分ち穂をなして四瓣の小き黄花を開く白菜の如く後扁き莢を結ぶ熟ハ黒色莢中に一子あり胡麻に似て葉味辛

木藍

藍澱ハ藍葉を採搗て坑中へ入石灰水を入澄して下ハ青色のかたまる物ゆゑのをりとゆゑ是なり青黛ハあいろう捧ゆゑ粉ゆゑ板流しゆゑ青色にて紫色ゆゑ上品なり又波斯國の製なるゆゑ舶来ゆゑ塊をなし其色紺青の如し画具ハ用ゆ

はいまつるき

又さえき遠とも山野ハ多し春月舊莖より葉を生じ槐の葉ハ似て小く秋穂をなして花ゆゑ胡枝子花ハ似て紅色後角を結ぶ赤小豆の角ハ似たり中子決明子より小く西洋ゆゑ是よりも藍を採イシナゴヘラと云

インデイゴー　羅甸
ハルレインブラーウヱ
インデイセブラーウ　荷蘭

雀翹　附錄　うるきづる

先輩の説未決せし暫圖して後の考を俟ていれハ杠板帰の一種柳葉なる物ゆゑ水邊ハ多し實より生じ莖紅色花ハ蕎麥ハ似て紅白色實も又蕎麥ハ似たり莖ハ刺ゆゑ鰻鱺を捕ハ此莖を持なさゆれハとらへ易し

甘藍

たかうん

實を下して生じ又舊幹三年を經て木の如し指の大さ高さ三尺葉ハ梢ハ牛形牡丹花の如く夏月ハ緑色冬ハ紫色ハ変じ春莖を抽つ芸薹の如く四瓣黄色後角を結蕪菁の如し

一種

をらんだな

地錦抄ハ諸葛ハ寶永正德年中ハ渡と云即ち甘藍の緑色なるもの實を下セハ莖紫色ハなるものも生じ

本草圖譜巻之二十目録

濕草類

蓼	たで	一
一種	すかきたで 赤蓼	二
香蓼	かんたで 水蓼	三
一種	白花ふたて	四
一種	わるいぬたで	五
一種	さつまたで	六
一種	白たで	
一種	紫蓼 細葉の物	
一種	えふたで	
馬蓼	いぬたで	
紅草	わるけたで	
毛蓼	けたで	

慶應義塾図書館蔵

海根　みづひき　八幡みづひき　七
一種　きんみづひき　ごしよみづひき　八
一種　うしたきそう　九
蠶茵草　たでもやき　同白花　十
一種　つきこんき　十一
虎杖　いたどり　十二
蕕　めいしだ　をいしだ　十三
蕕左傳　ゆまどりさう　十四
一種　尋常の品　同ちやが
火炭母草　たふたで　めごーつ
三白草　かさしろぐさ
蛇茵草　いぬいたどり
一種　八丈嶋の産
一種　蝦夷産
一種　わかひしだ　ゑぞびゑ
萹蓄　ほりやなぎ
蓋草　ちぶぶくさ　十五
蒺藜　えまびし　十六
穀精草　わしそう　わたほうさう　十七
海金砂　ちふくさ　十八
水揚梅　えふひりくさ　ぐれうさう　十九
紫花地丁　ちこれ白花　碧花さらさ
一種　白花二品　つるちこれ
一種　蛮産三種　廿一
一種　さくめ　かりやす
沙菀蒺藜　ちくめのゑんそう
一種
地揚梅　ちくめのやり　越中の産
半邊蓮　かたえくるま
一種　つかちこれ　こゆまちこれ　きつりちこれ
一種　きちこれ　ひめやき　ゑそちこれ　ゆつひちこれ
鬼針草

一種　三葉の物

本草圖譜卷之二十

東都　岩崎常正　著

濕草類

蓼　たで

春月實ある生れ
莖葉藍に似て
狹く味ひ辛し

一種　しろたで

莖葉淡緑色葉の形ひろたで
に似て狹く花白色味辛弘
景の説に有圓云是なり又
蘇頌云白蓼恐ハ是なる歟

一種　やふぎたで　辣蓼　群芳譜

人家多く栽葉ハ柳に似て
花青白色味ひ辛弘景
の説に有実ゝ是なり

一種　金糸たで

赤蓼　ひろたで

巣柳たであり潤
く本末紫て紅
紫色味ひ辛

紫蓼 むらさきたで

形状蓼藍に似て赤色味ひ辛辣花淡紅色

一種

葉細長にして緑の如く紫色之紫蓼の實生ず変ドなるものと

香蓼 かんたで

肥後に産ハ葉ハ青蓼に似て香氣ある播州の産苗短小なり又野州日光山蓼の海及相州蓼川等の名産にしてこれ形青蓼に似長く味ひ甚辛辣なり又陸地にも生ハ

水蓼

水辺に生ハ葉柳たてに似て高く花紅色味ひ辛なり又高き高尺葉長く花穂も粗大にて淡紅色なるもの是又馬蓼の類にて水辺に生ハ是時珍説の水蓼なり

一種 なかたで

道傍に多し形青蓼に似て花淡紅色なり小児のかのまゝまとまぶ

一種 白花なかたで

尾州より来る青蓼に似て長大花白色なり

馬蓼
いぬたで
荒野に生じ大小數種あり大なるものは高さ五六尺葉闊さ寸餘長さ四五寸葉の中央に八字の如き紫黒斑あり莖亦黒点あり是黒土記草あり辛味あり又葉は狹長にして葉の半ばに末紫色なるものあり

一種
おおいぬたで
細葉
ほそばたで

毛蓼

けたで

原野に生じ形状馬蓼に似て白毛ある莖高さ一尺餘夏月花を開く淡紅色なり

海根

みづひき

山野自生の物は長葉にて土午膝葉の如くにして厚く硬く莖淡紅色高さ二三尺秋月穂を引て蓼に似たり根に塊あり形菝葜の如く根葉味ひ淡し又葉に八の字の如き紫の斑ちるを八幡みづひきと云

一種

人家に栽るものは葉柿の如く花紅色之

一種　ちやがミづひき

苗矮生にして莖漸一寸許穂ハ長し

一種

きんみづひき

白花なり

一種

おちよみづひき

花紅白雜るものなり

火炭母草　タニタデ

山足にあり春月宿根より生じ嫩苗紅色葉
蓼に似て短く大さ小指頭　ちり對生し夏
莖高さ三尺梢穂をなして頗る午藤に似り
小き淡紅花を開き小き圓子を結
ふ形小鈴の如くにて毛茸あり根白色鬚
の如く處々苗を生じ葉味淡し火炭母草
に先輩杯ろいを共誤る今新説を注し

一種　めごーつ

是たにこその大葉なる物なり是亦山足湿地にあり春月宿根より
生じ初生紅色紫の如く葉の形酸漿つきに似て長く對生し節
紫色花実の形たでに似て梢大にして白花なり

一種　うーたきさう

山野にあり春月宿根より生じ莖葉緑色葉の形圓にて對
生蒜開きの如くにて毛茸あり莖高さ一尺許梢に穂をなして
小き白花を開く實椒粒の大さ緑色なり根ハ鬚の如く白し

三白草
かくしろくさ　和名鈔

水邊濕地にあり春月宿根より生じ葉ハ牛尾菜に似て互生し夏月莖高さ三尺許半夏生の時梢の三葉白色に変し大夫蓼の如く故に又ゆさうとも云梢の葉の間に三穂を生車前穂の如く又草撥に似り

蠶茴草
たでのどき

原野堤或ハ水田に宿根より生じ葉ハ馬蓼に似て莖高さ三尺秋月穂を引て花ひらく又蓼花に似て五瓣梅花の如く淡紅色美故にさくらたてとも

一種
白花の物形状相似て苗葉稍大なり

蛇莔草　ぬいたどう

駿州富士山方言こひたどうといふ春宿根より生じ葉女青の如くに似て厚く五生莖地に揭し長さ一尺梢に穂を列して小白花旋生し形虎杖に似たり

一種　つきみくさ

琉球産なりといふ莖地に揭し高さ尺許葉虎杖に似て圓く莖紅色八月頃穂を列して小紅花を開く又虎杖に似たり

一種

八丈嶋の産ハ葉虎杖似て高さ三四尺秋穂を刺て小白花族生し根肥大にして又虎杖の如し

虎杖

さいたつま

又いたどりとも云ふ荒野にあり春宿根より生し初生竹筍の如く節あり煮て食ふ小児生にて食ふ酸味ひあり葉ハ何首烏に似て背紫色多し秋月莖高さ四五尺葉の間に短き穂を生ず小白花を開き後小さき莢を結ぶ又何首烏に似たり

一種

蝦夷産

苗葉肥大初生六竹の筍の如く黒點あり長さ七八幹硬一竹の如く中空にて節あり大なる物は花瓶に造也

秋月莖高さ七八尺節の間に淡紅花を開き小蔕を結ぶ紅色にて花に勝ち備急本草越州虎杖なり

蒲

めひーバ

又ちまくとろくさともいふ田野道傍甚だ多し夏月實を生じ結縷草に似て莖葉肥大節の間を根を下し地に揚げ秋月穂を生じて岐あり鳥の足の形にて細く此草甚だ苗を害されとも去りにし爾雅及び本草拾遺に茵と書し然るを時珍蒲に改て左傳の薰一蒲の蒲と同物と云ふ誤なり

近郊に自生す春月實を栽ゑ生ひ形をひしだに似て又肥大鳥の足の如く花白色其實赤褐色にして硬く油菜子の如く本草從新青科西南夷人種之葉茅菜而細其稃其薄暴春炊食と云恐ハゑそびゑ

猶左傳　やまどうさう

山野にあり春月宿根より生ひ葉に玄參に似て短く又排草香ゑ
の葉に似たり悪臭ゆゑ柴觸れば暫く消せば秋月莖高さ三四尺
梢に花ゆゑ形唇の如く益母花に似て紫碧色上に白葉長く出づ

萹蓄

うしくさ　和名鈔

今に大つかまといふ原野道の傍に多し莖葉瞿麥に似て短く互生し夏月莖高さ二尺許節の間に小き花を開く蓼の花に似て淡紅白色なり菊に雜煮て食ひ疝病を治ひ云一種大まだらきは海辺に生じ葉濶大にして水楊の如くにて軟なり花實前種と同

盡草

さいふるぐさ

山野道の傍に多し葉は竹に似て短く軟にして莖を抱節に毛ゆり秋月穗を生じ形馬唐に似て短小なり八丈嶋にてをりふしといふ

一種

さゝめ

葉狹長にして莖を抱ひ葉は小竹の如く軟なり穗は狼尾草に似て短小なり

一種

かりやす　和名鈔

染家用て黄色を染るものゝ是なり
武州にては豊嶋郡下田の原に自生
ゆゑ春月宿根より生じ葉ハ茅に似
て背黄緑色高さ二尺許秋月穂を
生じ形蔦麥ちやひに似て細長なり

蒺藜

たまびし　本草　和名

ちろびし　和名　本草

相州鎌倉常陸君々濱其外諸国海
辺に於て春月實より生じ苗地に掲じ
葉ハ白芨ハ似て小く厚く且生じ夏
月莖長さ二尺餘葉の間に五瓣の小黄花
を開き後實を結ぶ刺ゆゑ熟しれば黄白
色形菱に似て小し故にひしの名あり

沙苑蒺藜　集解

さぐめのるぐさ

又いめるぐさともいふ原野草莽中に多し春月實を生じ葉ハ蒺藜に似て小く大葉米のとうの如くにて少く先に細き鬚ある花大豆花に似て甚さ小き紫色後小き莢を結ぶ中の子内腎の形に似たり

穀精草　わしさう

夏月水田中に多くあり實を生じ葉ハ細長く地楊梅のやうに似て光沢ありて毛なし一根叢生し梢葉の間より一莖を抽つ長さ一寸許梢に小圓花ある水楊梅の實に似て白色なり

一種　おもほしさう

三河国川其餘国又あり形状前條に似て稍大にして高さ三寸實も甚さ大いなり

夏月水田中に生じ草は石斛に似て節あり葉は竹栢に似て少く軟にして對生し秋月梢穗になり小き圓實を結ぶ蘋頌の說は一種莖梗長有節根微赤と云是なり又備急本草泰州穀精草の圖これに似り

海金砂

山中の樹下に生じ春月宿根あり生じ蔓草なり莖細して黃絲の如くにして硬く竹木に絡ふ葉は仙人掌草に似て花叉多く互生し蔓長さ三尺梢葉は小雉尾草にあるに似て葉の背に黃色の細點あり是實なり乾して振り落すと砂のごとし

地揚梅

さてぐめのやり

向陽の地に多し形穀精草に似て毛あり春敷莖を抽て頂に揚梅に似て紫褐色の實あり

一種

越中の産葉濶實に沙草に似て春月宿根より生從て穗を抽つ

水揚梅

えるひりぐさ

冬きさうそもいふ庭際尤多し小草にして地に布く菊の葉に似て其尤小く二三分葉の間に毬を生じ形揚梅に似て小く白色にして赤かしし味辛し微香あり乾して鼻に吸ハ嚏出つ

一種

ぶれうさう

ぶれうさうハ文政庚寅の年江戸にて初て栽實ある生じ葉ハ熬醬に似て圓莖互生し梢に穗をなして小毬を結ぶ形水揚梅の如く初白色後綠色葉に微毛あり實に粘あり

半邊蓮　かたえくるま

又たかむしろともいふ田野水側に多し小草なり葉は水揚梅にしたしきに似て尖り苗地に搨して長さ三四寸夏月葉の間に花を開く五瓣淡紅色かくしてあつて車の半輪の如し故に此名あり

紫花地丁　しそえれ　和名鈔

又いとかさともいふ是は長葉のしそえれなり原野向陽の地に多し春月生じ葉は車前に似て狹く葉の間に紫碧花を開く五瓣形烏頭に似て小なり又紅紫花の物白花の物あり是を白花地丁本草と云又紫白雜色なるものあり實の形小き瓜の如く熟せれば三ツに裂て中に細黑子あり

白花　さくさ

一種　つぶすこまき

又おまのつめともいふ原野に多し春月宿根より生じ葉は細辛に似て少し根叢生葉の間に花あり淡紫色形は長葉の物と同じ實も似て圓又葉中に紫色の筋あるものあり類皆草々菜本草

一種　こやましそえれ

深山に生じ葉の背紫色なり稍長葉の物あり花は淡紫色

一種　亀甲しそえれ

葉圓下少く亀甲紋あり花淡紫色なり又御紋しそえれと云あり葉大にして加茂あり心の如き紋脈あり

一種　きしこれ

加州白山に産し形状つがしこれに似葉に光沢ありて花黄色なり

一種　ひめふき

山野陸地に生じ葉は杜衡に似て軟りにして微毛ありて質はしこれと同じ

一種　ゑぞしこれ

京の叡山にあり葉は花又多く鳥頭に似て背紫色花淡紫色又葉は花又少く花白色のものもあり

一種　あふひしこれ

野州日光山其外深山に生じ葉は細辛に似て尖りあり花淡紫色なり又しこれ細辛とおなじ是は葉圓て尖りあり花淡紫色なり

鬼針草

わにだり

せんだんぐさ

原野に多くあり春月實あり生ハ葉ハ苦楝に似て方莖對生して秋月莖高さ三尺許枝を分ち蒂を生し五瓣の小き黄花を開く形狼把草に似て實に岐のあり刺ありて人衣を刺て去りたゝ又小葉の物あり又一種尾州濃州の産ハ三葉にて楝葉に似ハ花實同じ

一種

濃州の産